

長浜市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果概要【速報】

1 調査の目的

本市では令和2年に策定した「第2期長浜市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が令和6年度に満了となることから、令和7年度を始期とする「第3期長浜市子ども・子育て支援事業計画」の策定を進めています。

計画策定に係る基礎資料として、教育・保育サービスなどの子育て支援サービスの利用状況やニーズを把握するために調査を実施しました。

2 調査の概要

各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

■ 調査対象者及び調査の実施方法

「長浜市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【就学前児童用調査】」	
調査対象者	長浜市に居住する対象児童世帯を無作為抽出
調査票配布数	2,500人
調査期間	令和6年3月6日～令和6年3月19日
調査方法	郵送配布、インターネットによるオンライン回答
「長浜市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【小学生児童用調査】」	
調査対象者	長浜市に居住する対象児童世帯を無作為抽出
調査票配布数	2,500人
調査期間	令和6年3月6日～令和6年3月19日
調査方法	郵送配布、インターネットによるオンライン回答

3 調査票の回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童用調査	2,500	935	37.4
小学生児童用調査	2,500	974	39.0

4 報告書の見方について

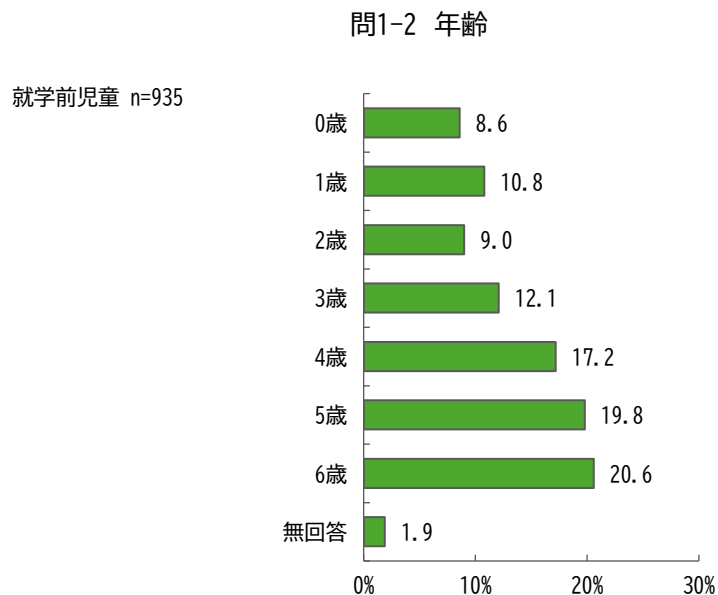
(1)電算処理の注意点

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（％）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

5 調査対象者の属性、家族状況

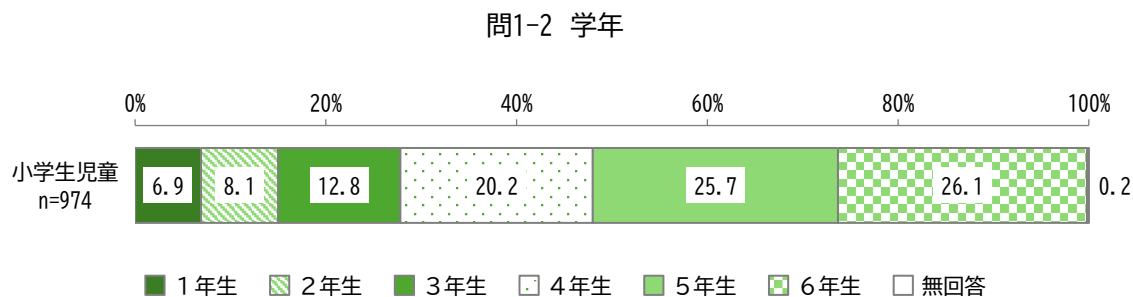
(1)就学前児童用調査の属性

回答された 935 人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



(2)小学生児童用調査の属性

回答された 974 人の小学生の属性は、以下のとおりです。



(3)居住地域の状況

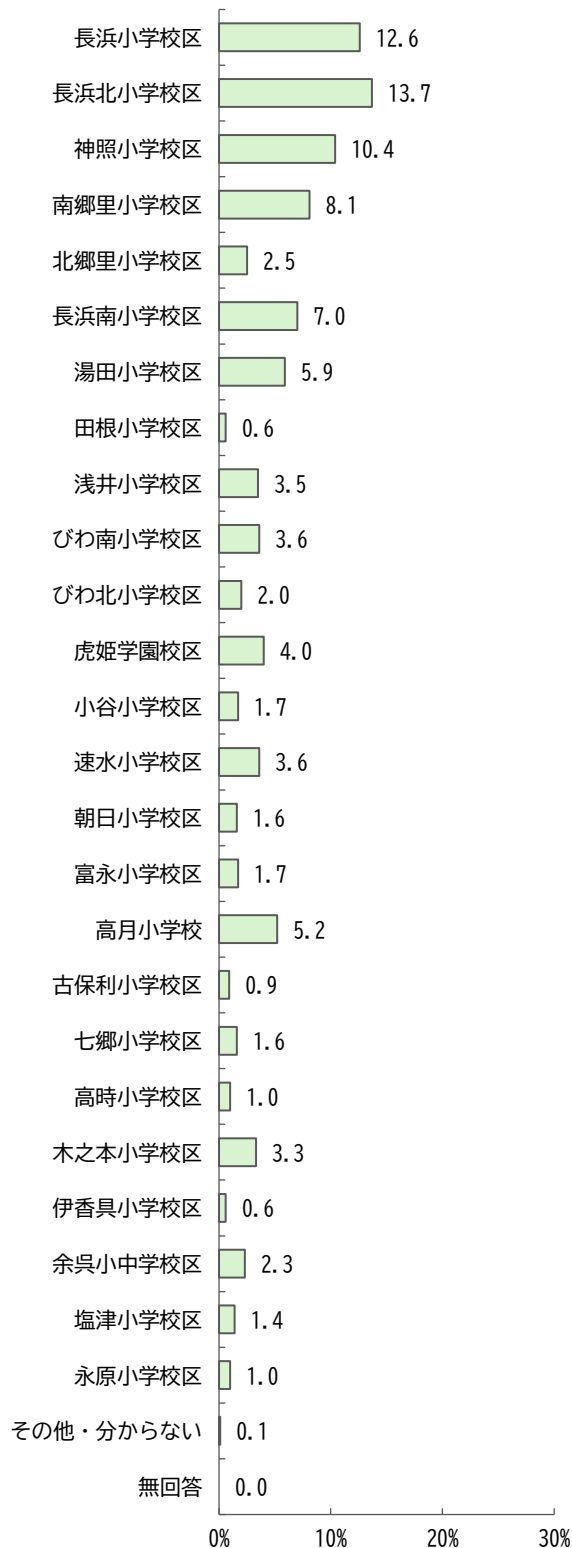
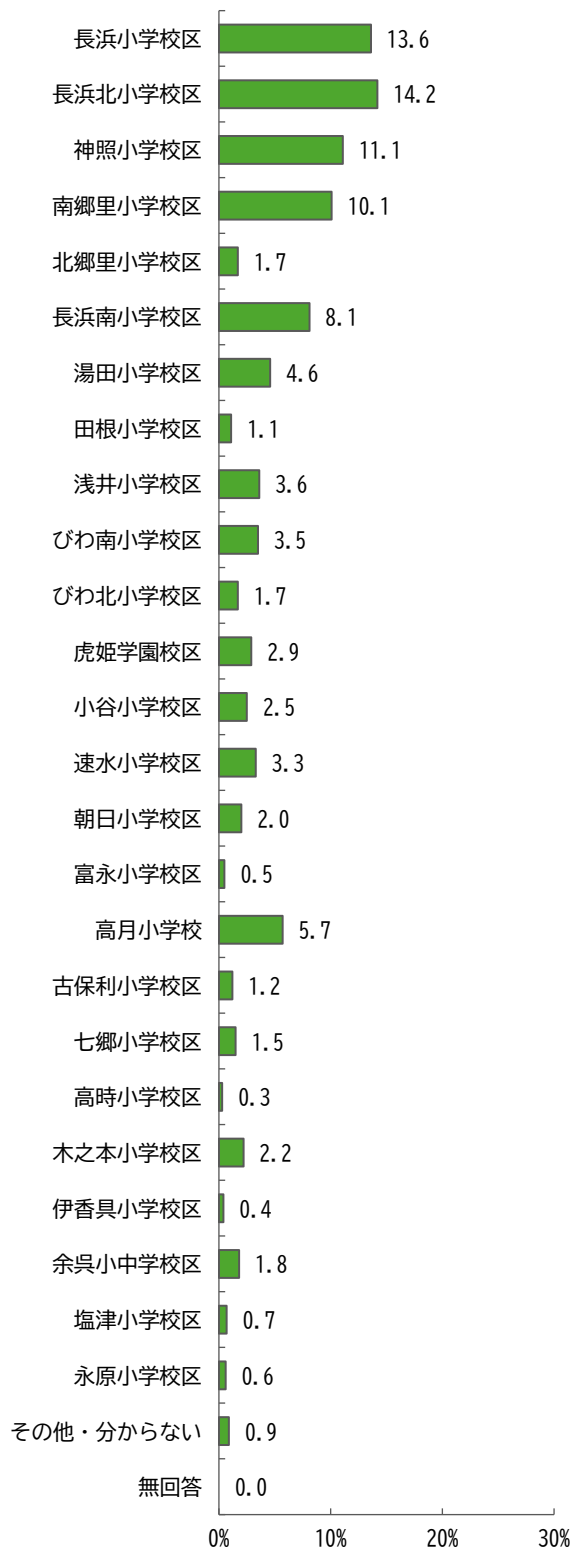
回答者が居住する小学校区は、以下のとおりです。

問1-1 居住小学校区(就学前児童)

問1-1 居住小学校区(小学生児童)

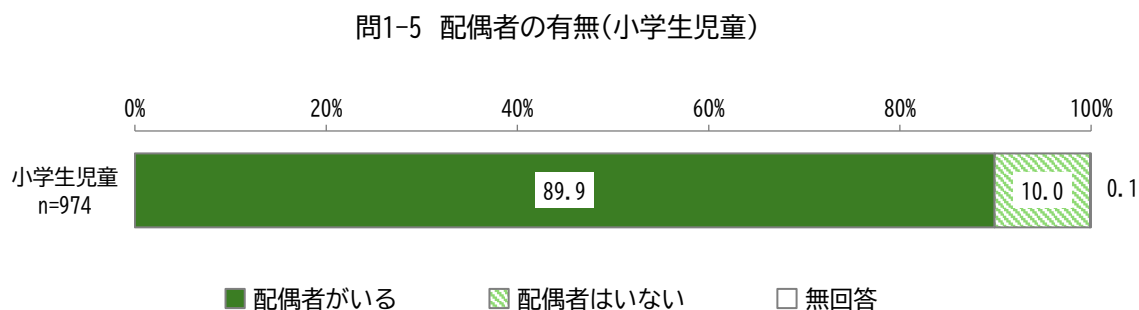
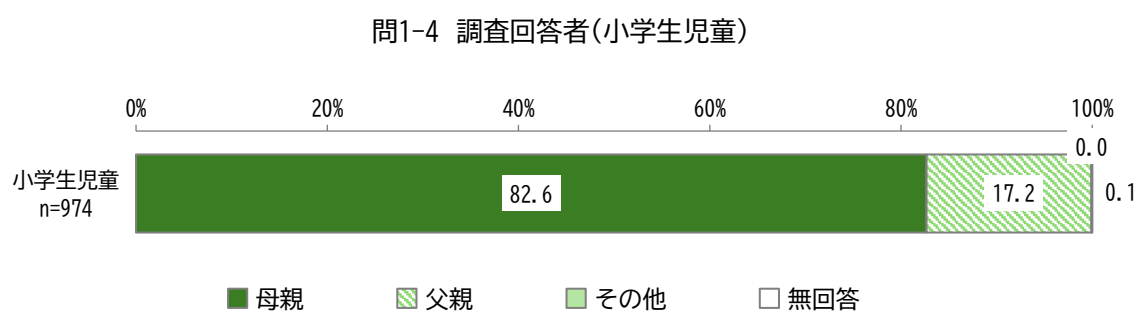
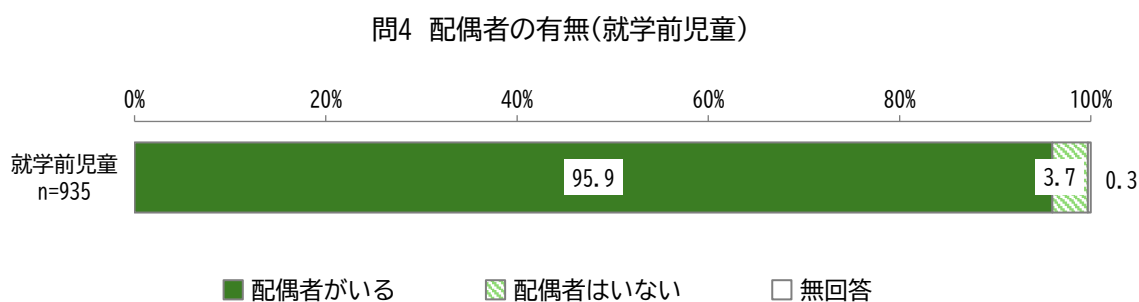
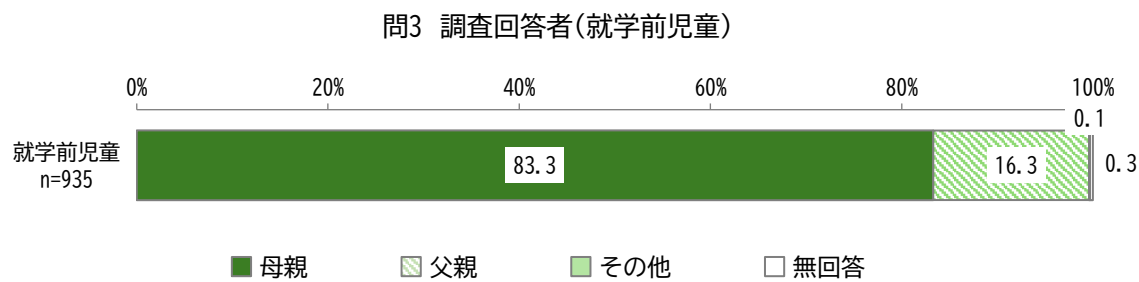
就学前児童 n=935

小学生児童 n=974



(4)調査回答者の状況と配偶者の有無

この調査の回答者は、以下のとおりです。



6 調査結果から見た現状と課題

結果1 周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は 就学前児童で9.7% 小学生で10.3%

子育てに関する親族、知人等協力者の状況は、就学前児童、小学生の保護者ともに、多くの保護者が日常的、または緊急時、用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答しており、大半の保護者は協力を得られる状況です。

一方で、協力者が「いずれもない」と回答した、孤立した子育て環境にいる保護者は就学前児童で9.7%、小学生で10.3%となっており、前回調査（H30年度）と比較すると、就学前児童で2.5ポイント、小学生では1.5ポイント増加しています。

【就学前児童：問1-9 小学生：問1-9】

以上の結果から、前回調査よりも孤立した子育て環境にいる保護者が増加している状況です。親族・知人等からの協力を得ることが難しい保護者に対し、相談窓口の周知をはじめとした情報提供を行うとともに、地域の保育力の強化及び、行政の相談窓口をより機能させる取り組みが必要となります。

結果2 母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童で76.6%、小学生で88.0%

母親の就労状況を見ると、就学前児童が76.6%、就学児童が88.0%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童で20.4%、小学生で1.0%となっています。

前回調査（H30年度）と比較すると、就労している母親の割合は、就学前児童で13.7ポイント、小学生で8.1ポイント増加しています。【就学前児童：問2-1 小学生：問2-1】

以上の結果から、前回調査よりも就労する母親は増加しています。定期的な教育、保育事業については、就労実態に即した事業体制を整える必要があり、事業体制の構築について検討していく必要があります。

結果3 病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、母親が休んだ割合が7割以上

病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、就学前児童・小学生いずれも「母親が休んだ」（就学前児童79.0%、小学生71.4%）が最も多く、次いで「父親が休んだ」（就学前児童46.8%、小学生26.3%）となっています。

【就学前児童：問5-2 小学生：問3-2】

以上の結果から、病気やケガをした子どもをみるのは母親の役目であるという役割意識の定着がうかがわれますが、就学前児童では父親が休んだ割合が5割近い結果となっており、父親が休暇を取得しやすい職場環境づくりが徐々に始まっていると推察されます。父親の育児参加の促進やワーク・ライフ・バランスの取組など、父親の育児参加を促すための対策を進めていく必要があります。

結果4 子育てに関する情報の入手元は「広報ながはま」が7割以上 市の子育て情報の発信については3割以上が不満

市の子育て情報に関する入手先として、「広報ながはま」（就学前児童70.2％・小学生77.2％）が最も多く、次いで就学前児童では「幼稚園・保育所・認定こども園等」（54.9％）、「子育て応援アプリ「ながまるキッズ！」（43.6％）、小学生では「小学校・放課後児童クラブ等」（49.1％）、「友人・知人」（34.6％）をあげており、情報の入手先が多様化していることがうかがえます。【就学前児童：問7-4 小学生：問5-2】

市の子育て情報の発信については不満と回答した方は（「どちらかといえば不満」＋「不満」の合計）就学前で32.5％、小学生で38.4％となっています。満足していない理由として「情報の量が少ない」（就学前児童80.0％・小学生62.5％）、「必要な情報にたどりつけない」（就学前児童74.0％・小学生71.9％）が高くなっています。

以上の結果から、多様化する入手元を踏まえ、様々な媒体を通じた情報提供を検討するとともに、提供する情報や提示方法についても考慮する必要があります。

結果5 就学前児童の放課後児童クラブの利用希望は38.6％ （小学校1～3年生になった場合）

就学前児童の「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」の利用希望をみると、小学校1～3年生の時期は「放課後児童クラブ」（38.6％）「放課後子ども教室」（9.0％）となっています。小学校4～6年生の時期になると、「放課後児童クラブ」（22.0％）「放課後子ども教室」（7.7％）となり、「放課後児童クラブ」の利用希望は減少し、代わりに「自宅」（45.8％）、「塾や習い事」（28.6％）が増え、ニーズの変化がうかがえます。

一方、小学校の放課後の過ごし方について聞いたところ、「自宅」（小学生1～3年生：54.9％、小学生4～6年生：62.0％）、「塾や習い事」（小学生1～3年生：24.1％、小学生4～6年生：29.4％）が高くなっており、「放課後児童クラブ」（小学生1～3年生：30.7％、小学生4～6年生：13.3％）、「放課後子ども教室」（小学生1～3年生：7.5％、小学生4～6年生：4.3％）となっています。【就学前児童：問8-1、問8-2 小学生：問6-1、問6-2】

以上の結果から、子どもの年齢が上がるにつれ保護者のニーズも変化するため、ニーズの変化に対応しながら事業を進めていく必要があります。

結果6 子育て環境や支援に対する満足度（「満足」＋「どちらかという満足」）は、 就学前児童で66.4％、小学生で69.3％

子育ての環境や支援に対する満足度（「満足」＋「どちらかという満足」）は、就学前児童で66.4％、小学生で69.3％となっています【就学前児童：問12-11 小学生：問9-11】

以上の結果から、本市の子育て環境や支援に対して、一定の評価がされていると言えます。今後さらにこの評価を引き上げるためには、子育て世帯の様々なニーズに即した対策見直し・改善を図り、満足度向上に向けた取り組みを検討する必要があります。

7 調査結果

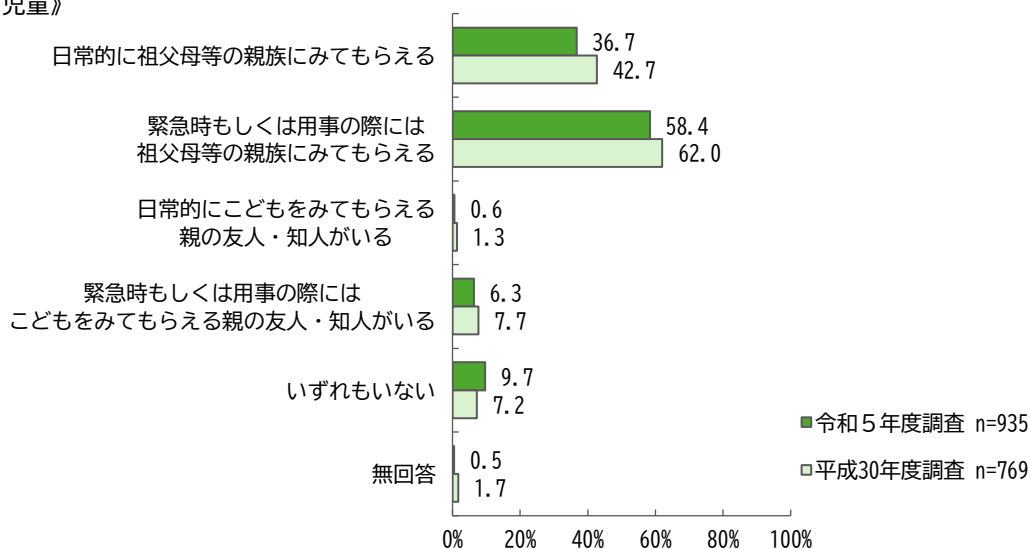
(1) 子育ての状況について

▶1 子どもをみてもらえる親族・知人の有無(複数回答)就学前・小学生共通 問1-9

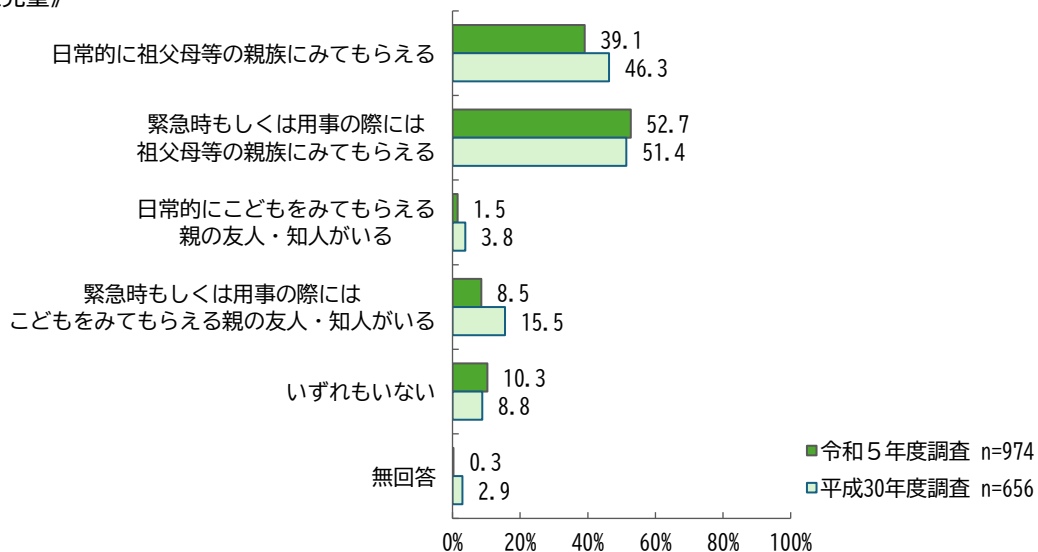
就学前児童・小学生児童ともに、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(58.4%・52.7%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、就学前児童・小学生児童ともに、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際にはこどもをみてもらえる親の友人・知人がいる」は減少していますが、「いずれもない」は増加しています。

《就学前児童》



《小学生児童》



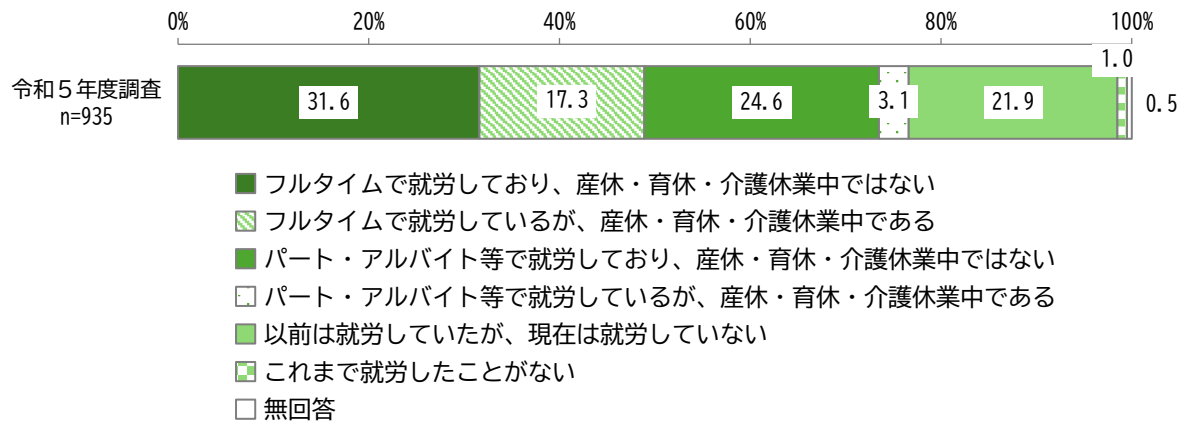
(2) 保護者の就労状況について

▶1 母親の現在の就労状況(単数回答)就学前・小学生共通 問2-1

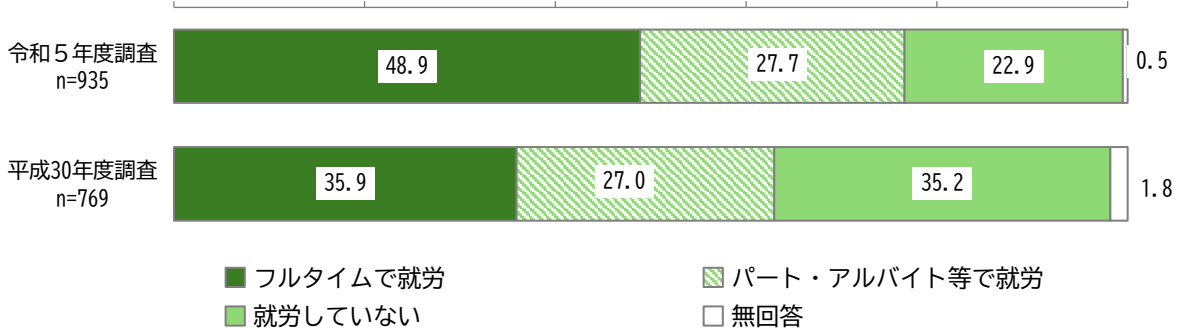
母親の就労状況をみると、就学前児童は「フルタイムで就労」が48.9%、「パート・アルバイト等で就労」が27.7%、「就労していない」が22.9%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで就労」が13.0ポイント、「パート・アルバイト等で就労」が0.7ポイント増加していることから、就労割合は上昇していることがうかがえます。

《就学前児童》



《再掲》

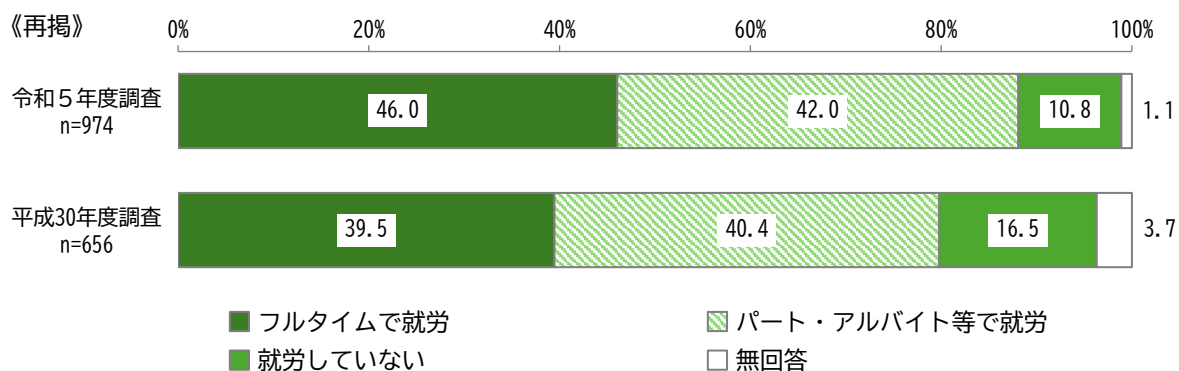
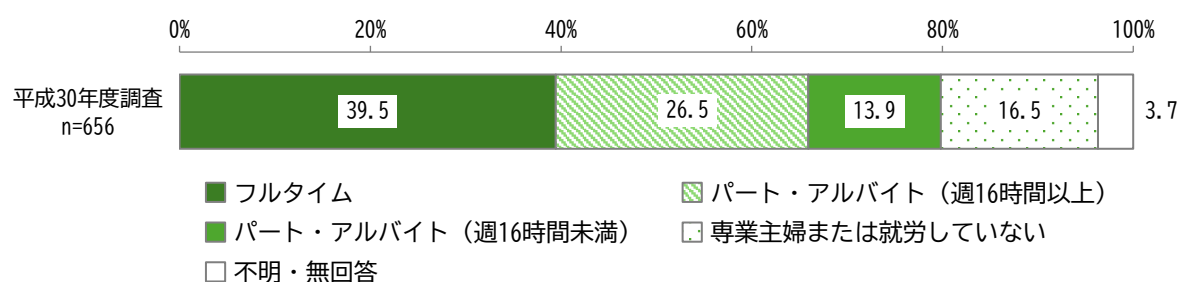
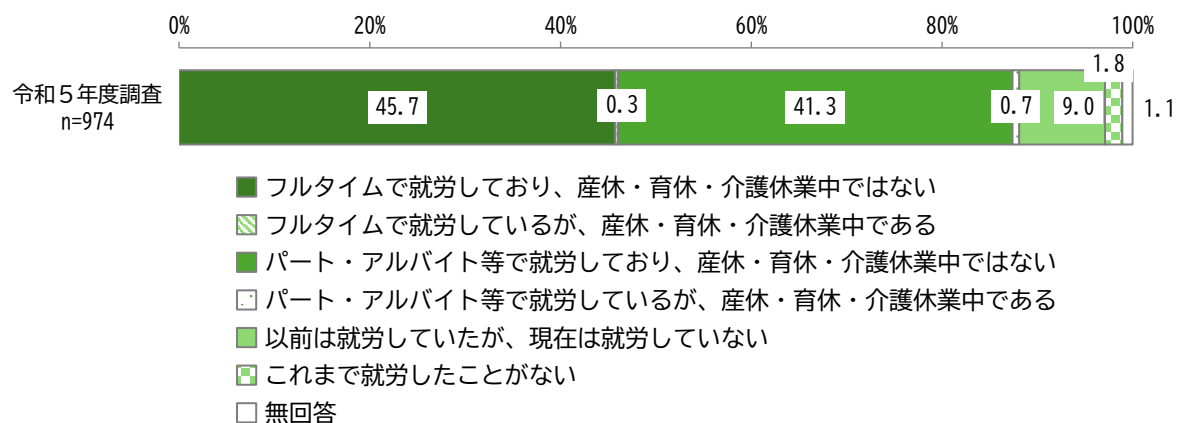


※令和5年度調査：「フルタイム」「パート・アルバイト」「就労していない」にまとめて掲載
平成30年度調査：「パート・アルバイト」をまとめて掲載

母親の就労状況をみると、小学生児童は「フルタイムで就労」が46.0%、「パート・アルバイト等で就労」が42.0%、「就労していない」が10.8%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで就労」が6.5ポイント、「パート・アルバイト等で就労」が1.6ポイント増加していることから、就労割合は上昇していることがうかがえます。

《小学生児童》



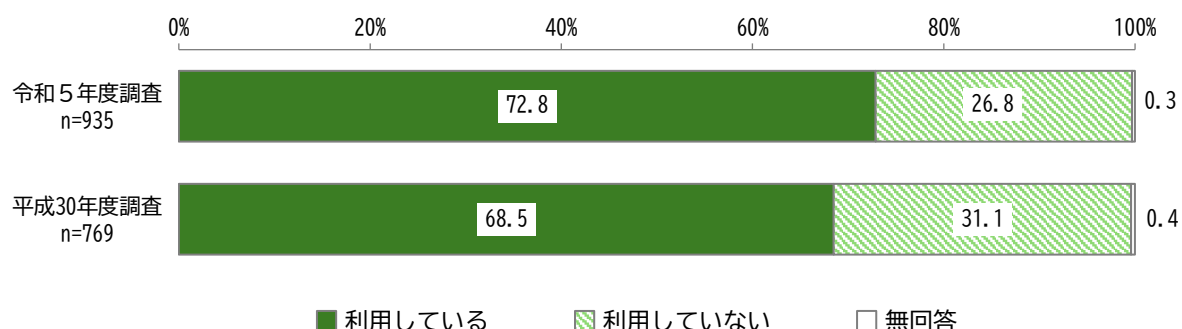
※ 令和5年度調査：「フルタイム」「パート・アルバイト」「就労していない」をまとめて掲載
 平成30年度調査：「パート・アルバイト」をまとめて掲載

(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

▶1 幼稚園・保育園・認定こども園などの利用状況(単数回答)就学前 問3-1

今回調査では「利用している」が72.8%となっています。

前回調査と比較すると、「利用している」が4.3ポイント増加しています。

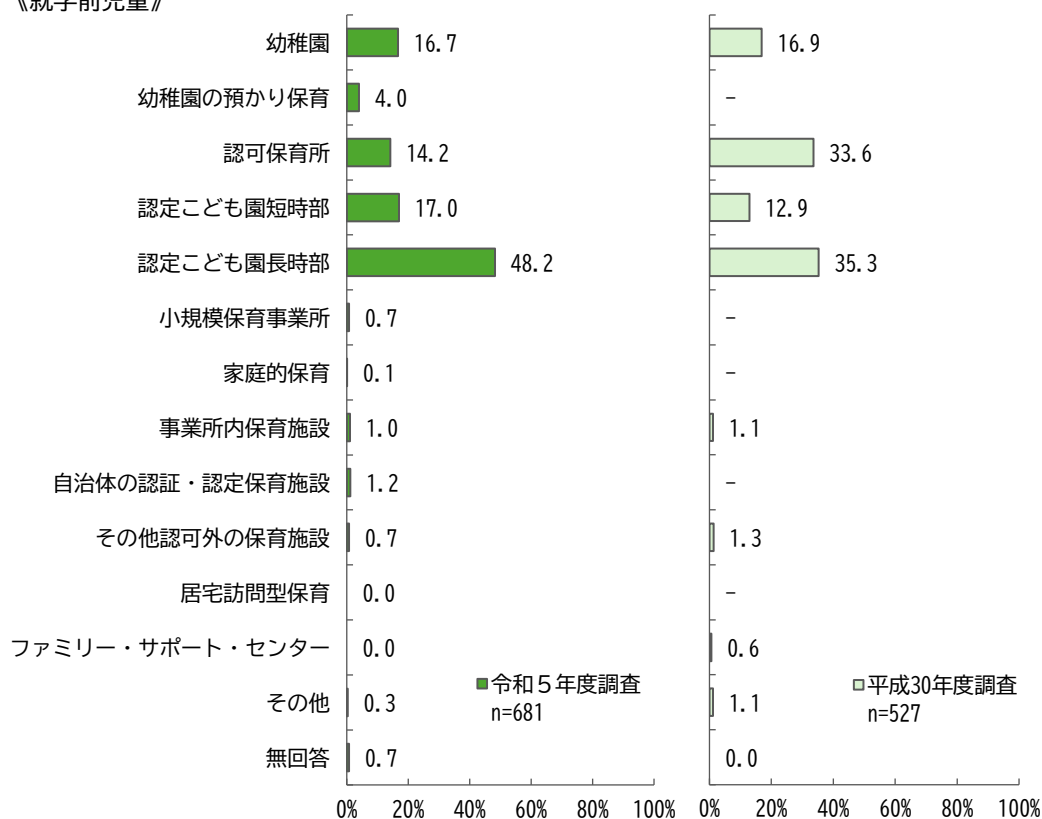


▶2 定期的に利用している事業(定期的な事業利用者)(複数回答)就学前 問3-2

今回調査では「認定こども園長時部」(48.2%)、「認定こども園短時部」(17.0%)の利用割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「認定こども園長時部」「認定こども園短時部」は増加し、「認可保育所」は大幅に減少しています。

《就学前児童》

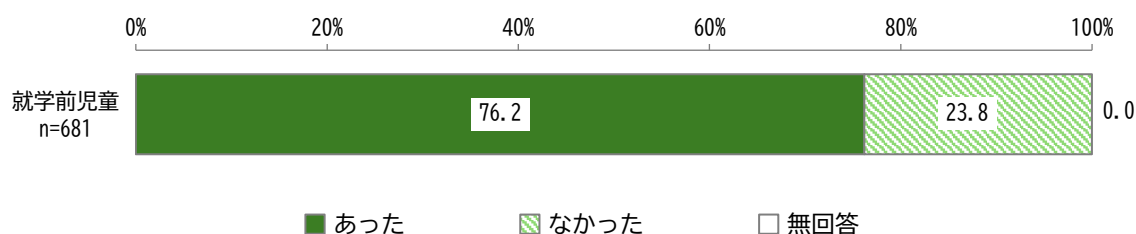


※グラフ内「-」は調査にない項目

(4) お子さんの病気の際の対応について

- ▶1 定期的な教育・保育事業を利用している方で、この1年間にお子さんが病気やケガで通常の事業を利用できなかったことはあったか(単数回答) 就学前 問5-1

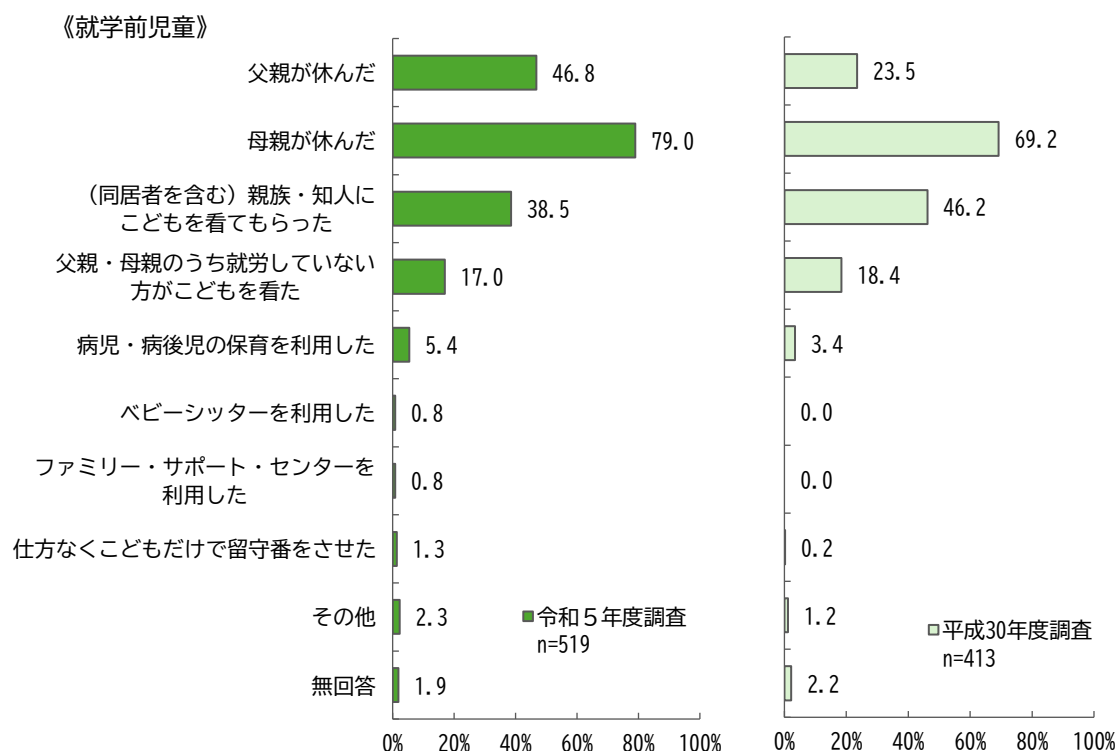
「あった」が76.2%、「なかった」が23.8%となっています。



- ▶2 お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育事業を利用できなかった場合、どのように対応したか(複数回答) 就学前 問5-2

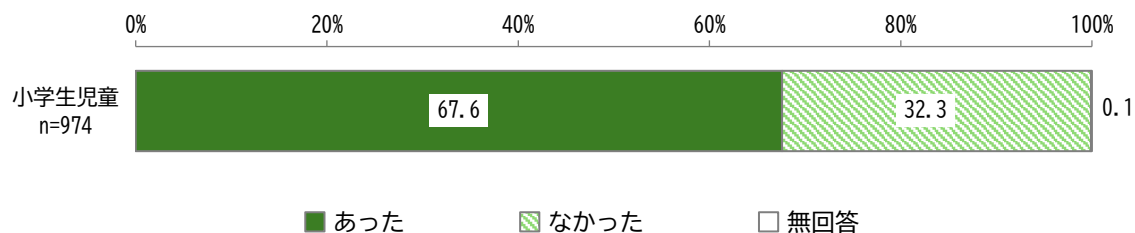
「母親が休んだ」が79.0%で最も高く、次いで「父親が休んだ」が46.8%、「(同居者を含む)親族・知人にこどもを看てもらった」が38.5%、「父親・母親のうち就労していない方が子どもを看た」が17.0%、「病児・病後児の保育を利用した」が5.4%となっています。

前回調査と比較すると、「父親が休んだ」は大幅に増加しています。



▶3 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校へ行けなかったことはあるか(単数回答)
小学生 問3-1

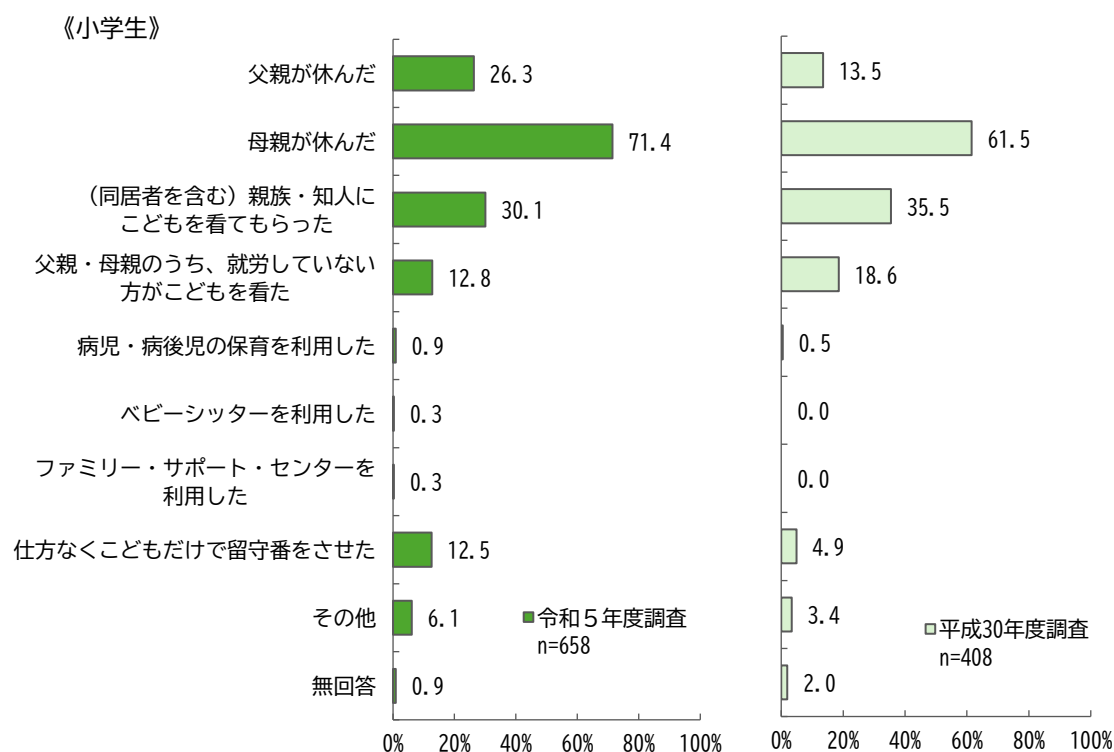
「あった」が67.6%、「なかった」が32.3%となっています。



▶4 この1年間に、お子さんが病気やけがで学校に行けなかった場合、どのように対応したか
(複数回答) 小学生 問3-2

「母親が休んだ」が71.4%で最も高く、次いで「(同居者を含む) 親族・知人にこどもを看てもらった」が30.1%、「父親が休んだ」が26.3%、「父親・母親のうち、就労していない方がこどもを看た」が12.8%、「仕方なくこどもだけで留守番をさせた」が12.5%となっています。

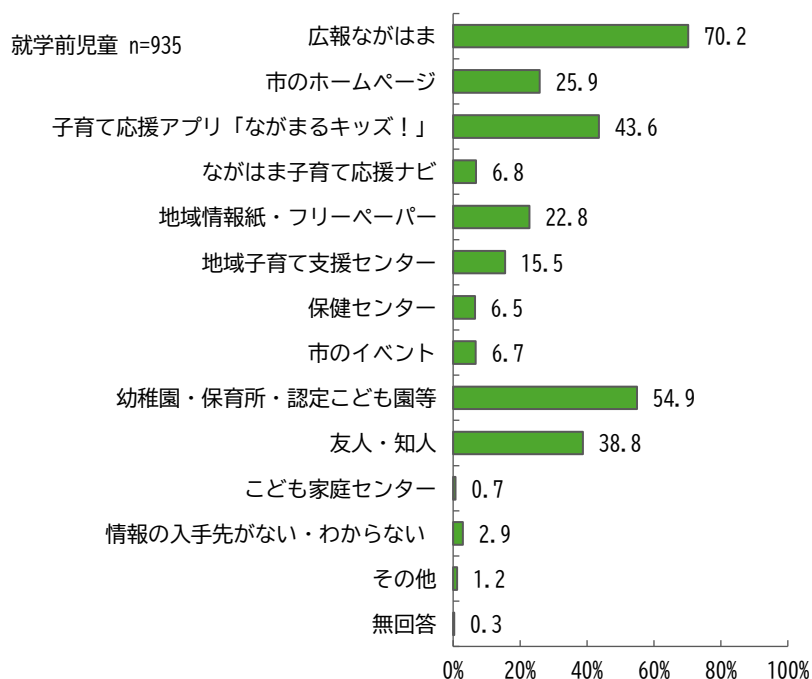
前回調査と比較すると、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「仕方なくこどもだけで留守番をさせた」は増加しています。



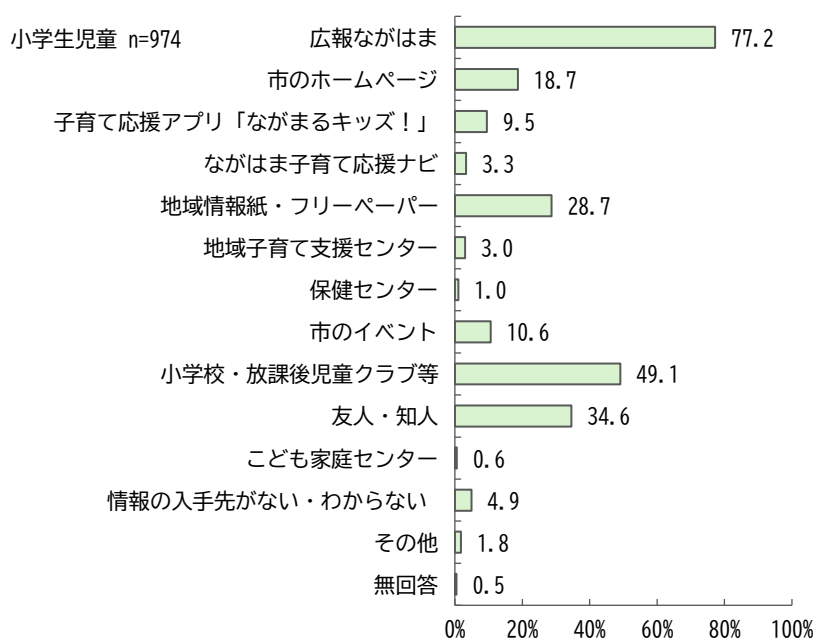
(5) 市の子育て情報について

1 市の子育て情報をどこから入手しているか(複数回答) 就学前 問7-4 小学生 問5-2

「広報ながはま」が70.2%で最も高く、次いで「幼稚園・保育所・認定こども園等」が54.9%、「子育て応援アプリ「ながまるキッズ！」」が43.6%、「友人・知人」が38.8%となっています。

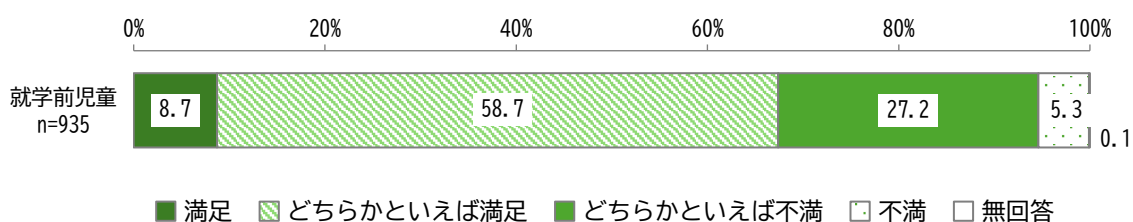


「広報ながはま」が77.2%で最も高く、次いで「小学校・放課後児童クラブ等」が49.1%、「友人・知人」が34.6%、「地域情報紙・フリーペーパー」が28.7%、「市のホームページ」が18.7%となっています。

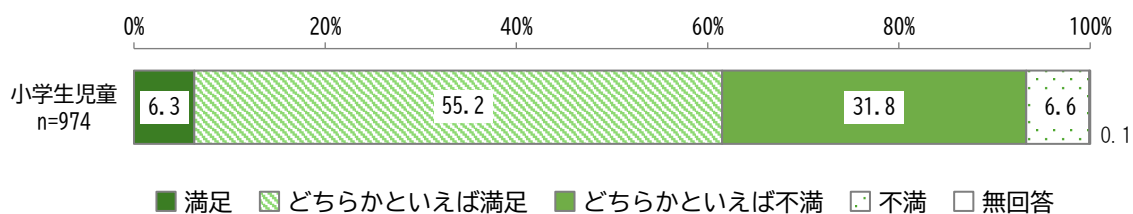


2 市の子育て情報の発信について満足か(単数回答) 就学前 問7-6 小学生 問5-4

「どちらかといえば満足」が58.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば不満」が27.2%、「満足」が8.7%、「不満」が5.3%となっています。

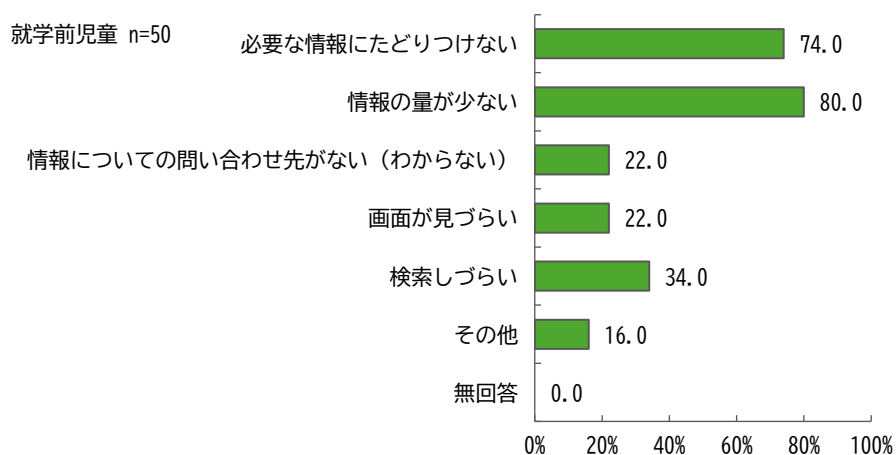


「どちらかといえば満足」が55.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば不満」が31.8%、「不満」が6.6%、「満足」が6.3%となっています。

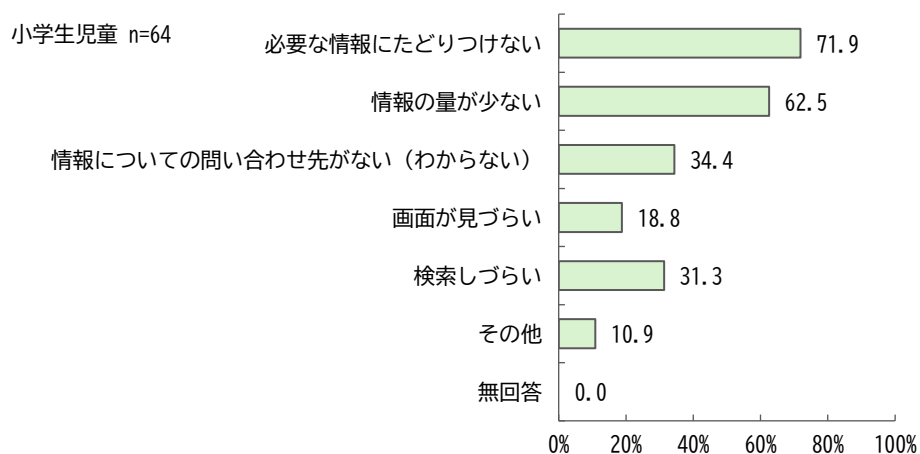


3 満足していない理由(複数回答) 就学前 問7-7 小学生 問5-5

「情報の量が少ない」が80.0%で最も高く、次いで「必要な情報にたどりつけない」が74.0%、「検索しづらい」が34.0%、「情報についての問い合わせ先がない（わからない）」「画面が見づらい」が22.0%となっています。



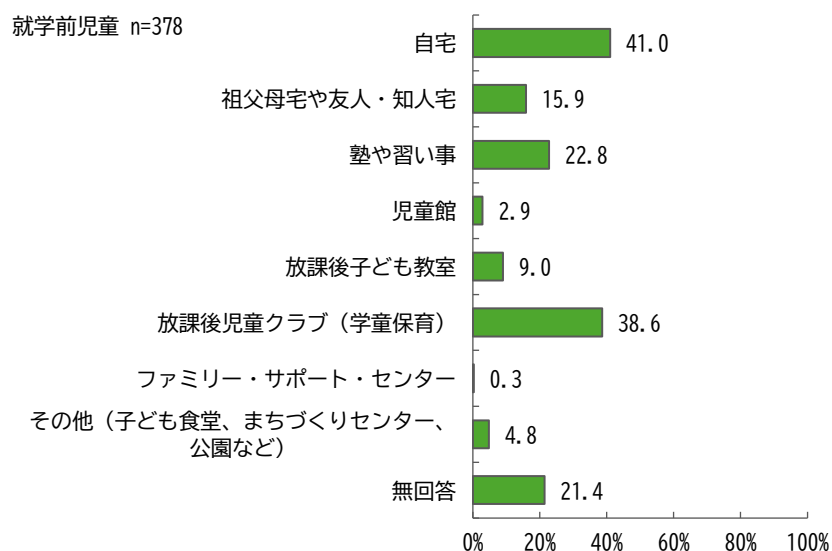
「必要な情報にたどりつけない」が71.9%で最も高く、次いで「情報の量が少ない」が62.5%、「情報についての問い合わせ先がない（わからない）」が34.4%、「検索しづらい」が31.3%となっています。



(6) 放課後の過ごし方について

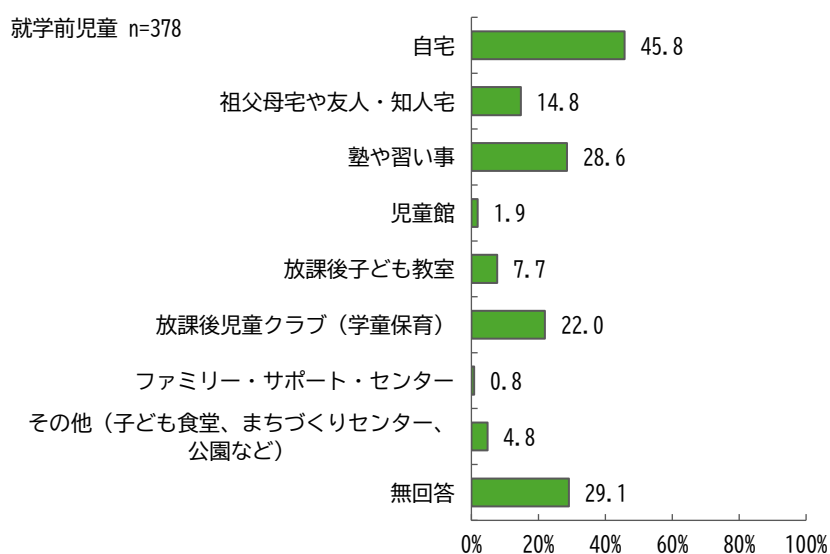
1 小学校就学後(小学校低学年(1～3年生))のうちの放課後の過ごし方(複数回答) 就学前 問8-1

「自宅」が41.0%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」が38.6%、「塾や習い事」が22.8%、「祖父母宅や友人・知人宅」が15.9%となっています。



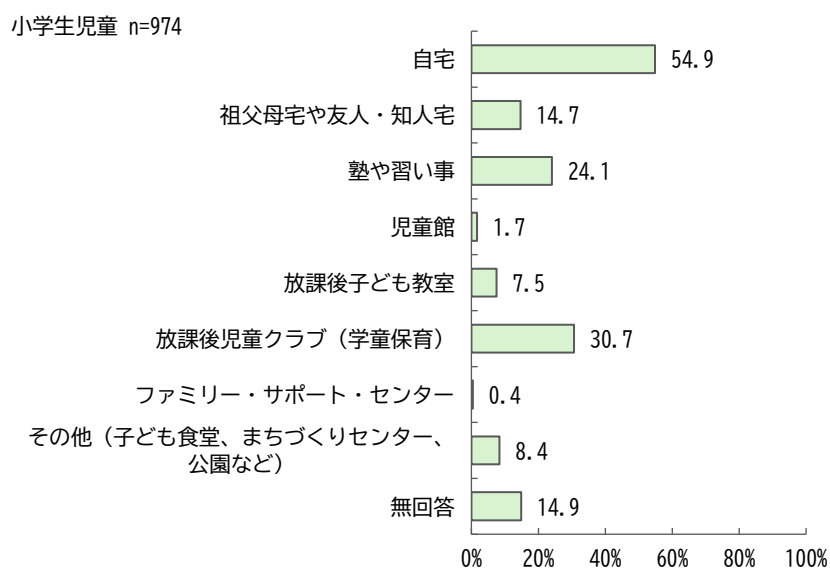
2 小学校就学後(小学校高学年(4～6年生))のうちの放課後の過ごし方(複数回答) 就学前 問8-2

「自宅」が45.8%で最も高く、次いで「塾や習い事」が28.6%、「放課後児童クラブ(学童保育)」が22.0%、「祖父母宅や友人・知人宅」が14.8%となっています。



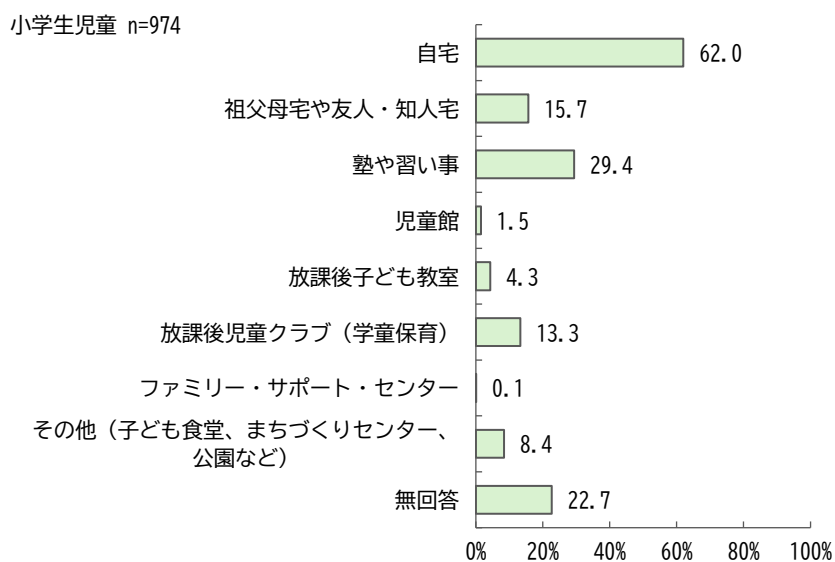
▶3 小学校低学年(1～3年生)のうちの放課後の過ごし方(複数回答) 小学生 問6-1

「自宅」が54.9%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」が30.7%、「塾や習い事」が24.1%、「祖父母宅や友人・知人宅」が14.7%となっています。



4 小学校高学年(4～6年生)のうちの放課後の過ごし方(複数回答) 小学生 問6-2

「自宅」が62.0%で最も高く、次いで「塾や習い事」が29.4%、「祖父母宅や友人・知人宅」が15.7%、「放課後児童クラブ(学童保育)」が13.3%となっています。

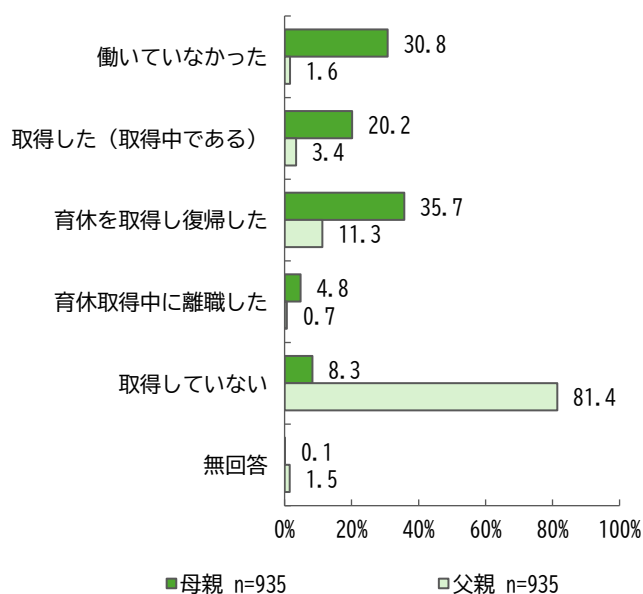


(7) 仕事と育児の両立支援制度について

1 お子さんが生まれた時、育児休業を取得したか(単数回答) 就学前 問9-1

母親は「育休を取得し復帰した」が35.7%で最も高く、次いで「働いていなかった」が30.8%、「取得した（取得中である）」が20.2%、「取得していない」が8.3%、「育休取得中に離職した」が4.8%となっています。

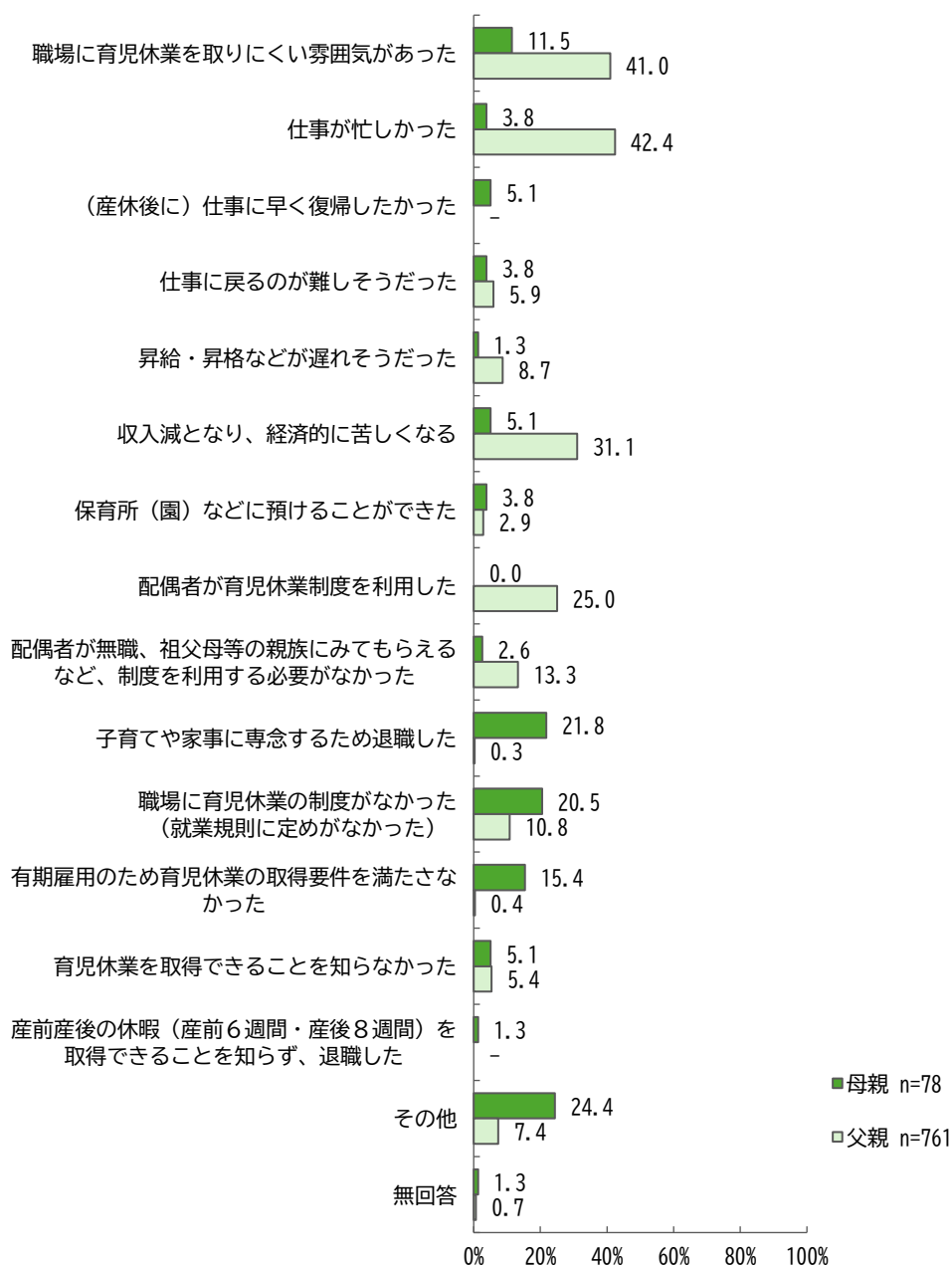
父親は「取得していない」が81.4%で最も高く、次いで「育休を取得し復帰した」が11.3%、「取得した（取得中である）」が3.4%、「働いていなかった」が1.6%、「育休取得中に離職した」が0.7%となっています。



2 育児休業を取得していない理由(複数回答) 就学前 問9-4

母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が21.8%で最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が20.5%、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が15.4%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が11.5%となっています。

父親は「仕事が忙しかった」が42.4%で最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が41.0%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が31.1%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が25.0%となっています。

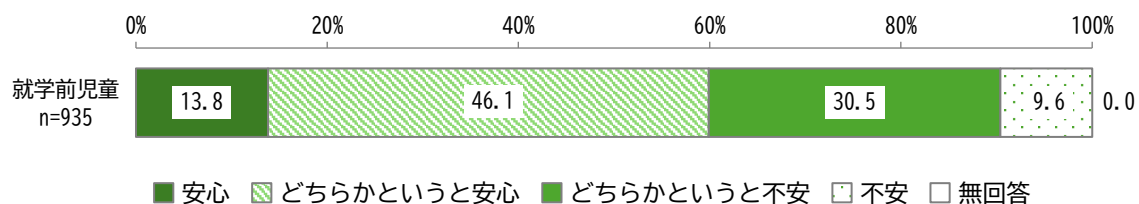


「(産休後に) 仕事に早く復帰したかった」「産前産後の休暇(産前6週間・産後8週間)を取得できることを知らず、退職した」は父親の選択肢に含まれていません。

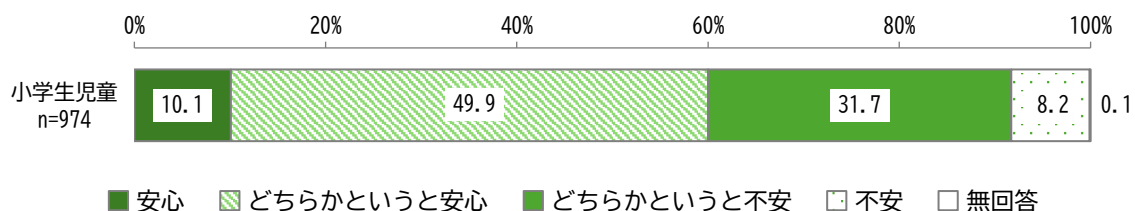
(8) 妊娠・出産について

- 1 長浜市における妊産婦の環境や支援の安心度についてお答えください。(単数回答)
就学前 問11-1 小学生 問8-1

「どちらかというと安心」が46.1%で最も高く、次いで「どちらかというと不安」が30.5%、「安心」が13.8%、「不安」が9.6%となっています。



「どちらかというと安心」が49.9%で最も高く、次いで「どちらかというと不安」が31.7%、「安心」が10.1%、「不安」が8.2%となっています。

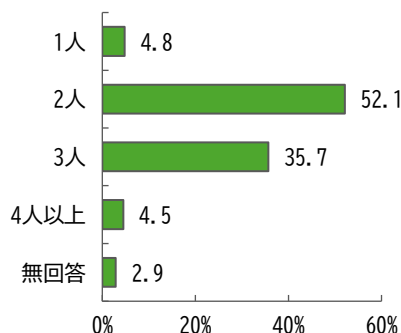


2 夫婦の理想としているこどもの数は何人ですか。(単数回答)

就学前 問11-3 小学生 問8-3

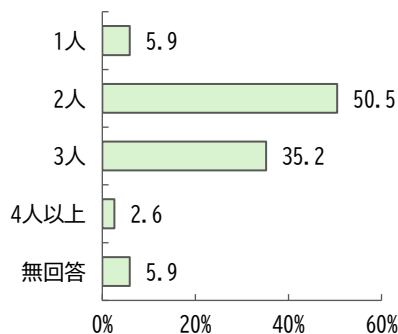
「2人」が52.1%で最も高く、次いで「3人」が35.7%、「1人」が4.8%となっています。

就学前児童 n=935



「2人」が50.5%で最も高く、次いで「3人」が35.2%、「1人」が5.9%となっています。

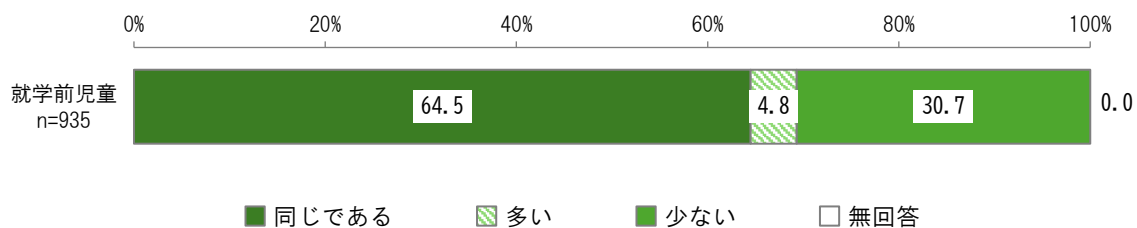
小学生児童 n=974



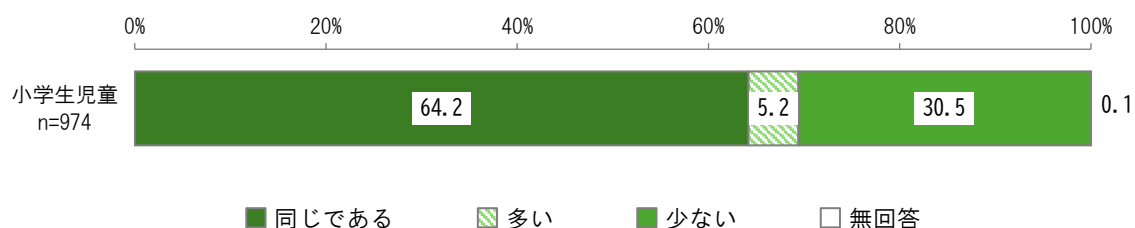
3 夫婦の予定しているこどもの数は、理想のこどもの数と異なりますか。(単数回答)

就学前 問11-4 小学生 問8-4

「同じである」が64.5%で最も高く、次いで「少ない」が30.7%、「多い」が4.8%となっています。



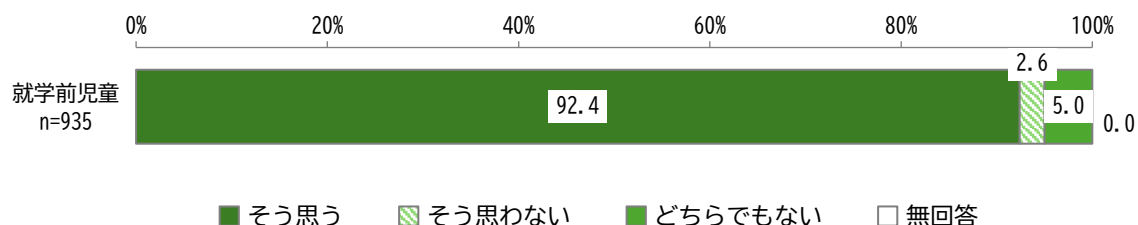
「同じである」が64.2%で最も高く、次いで「少ない」が30.5%、「多い」が5.2%となっています。



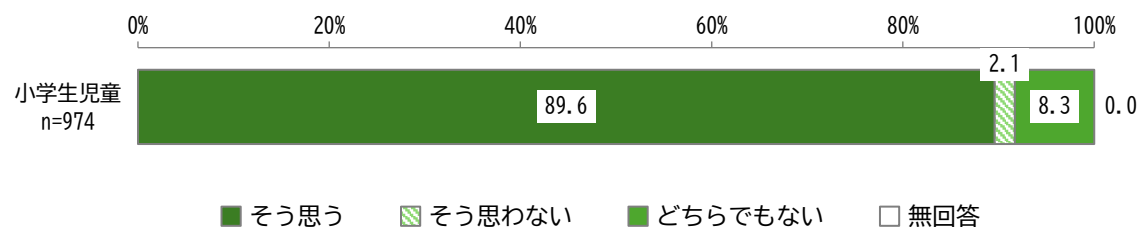
(9) めざすこどもの姿と親の思いについて

1 こどもは生まれながらに権利を有していると思いますか。(単数回答) 就学前 問12-1 小学生 問9-1

「そう思う」が92.4%で最も高く、次いで「どちらでもない」が5.0%、「そう思わない」が2.6%となっています。



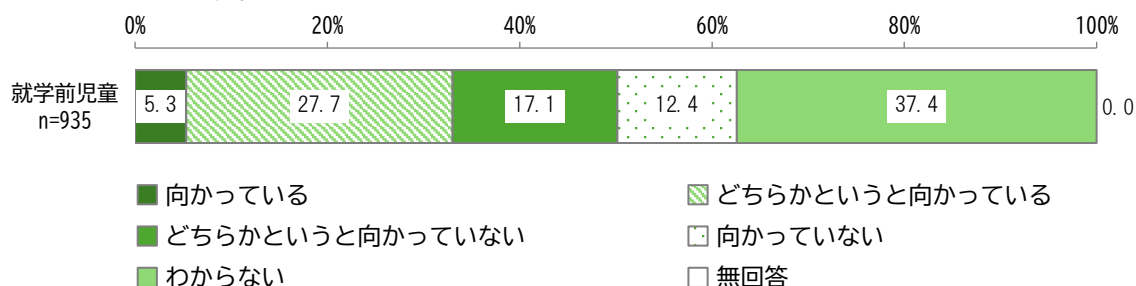
「そう思う」が89.6%で最も高く、次いで「どちらでもない」が8.3%、「そう思わない」が2.1%となっています。



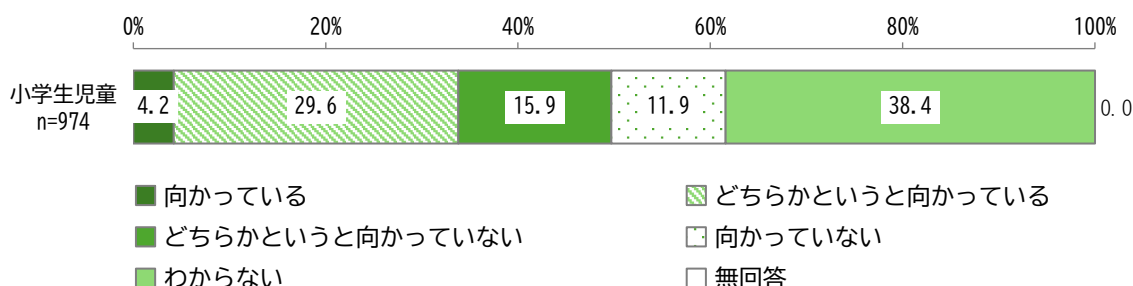
2 長浜市はこどもまんなか社会の実現に向かっていると思うか(単数回答)

就学前 問12-2 小学生 問9-2

「わからない」が37.4%で最も高く、次いで「どちらかというに向かっている」が27.7%、「どちらかという向かっていない」が17.1%、「向かっていない」が12.4%、「向かっている」が5.3%となっています。

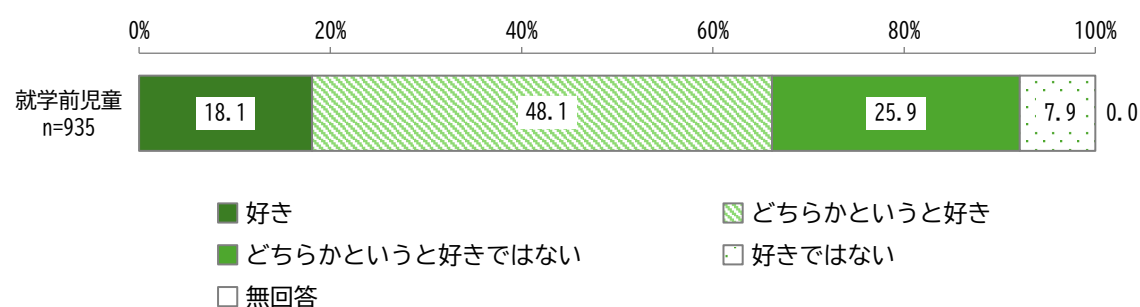


「わからない」が38.4%で最も高く、次いで「どちらかというに向かっている」が29.6%、「どちらかという向かっていない」が15.9%、「向かっていない」が11.9%となっています。

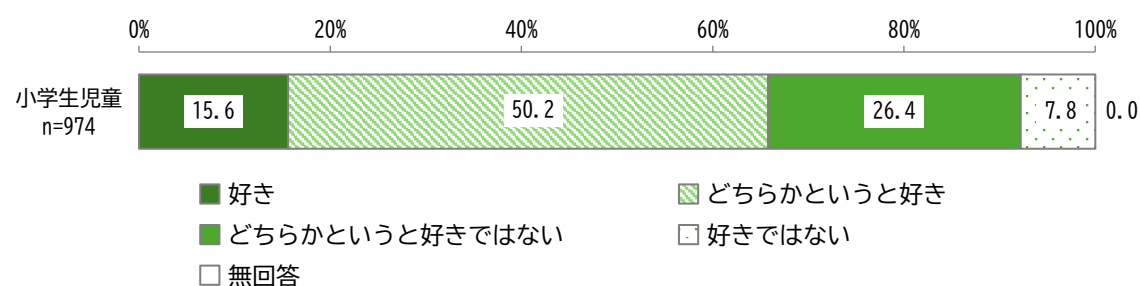


3 今の自分が好きか(単数回答) 就学前 問12-3 小学生 問9-3

「どちらかというが好き」が48.1%で最も高く、次いで「どちらかという好きではない」が25.9%、「好き」が18.1%、「好きではない」が7.9%となっています。

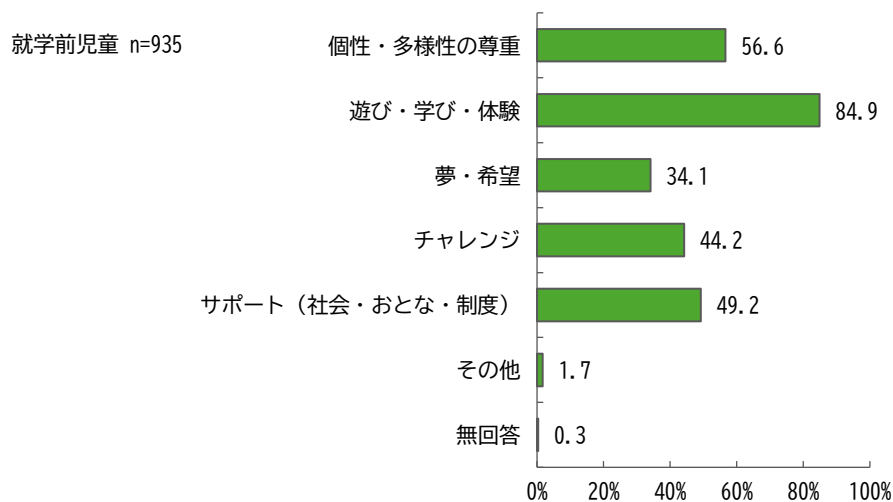


「どちらかというが好き」が50.2%で最も高く、次いで「どちらかという好きではない」が26.4%、「好き」が15.6%、「好きではない」が7.8%となっています。

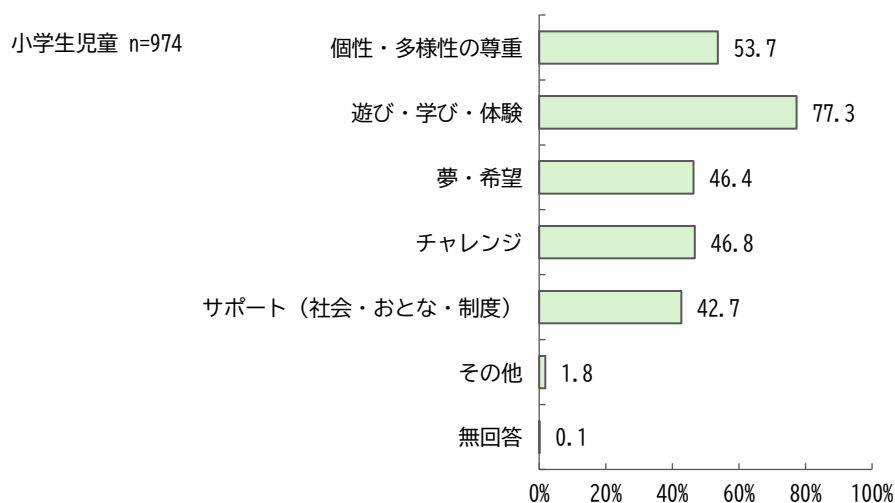


4 こども・若者の成長のために必要と考えること(複数回答) 就学前 問12-5 小学生 問9-5

「遊び・学び・体験」が84.9%で最も高く、次いで「個性・多様性の尊重」が56.6%、「サポート（社会・おとな・制度）」が49.2%、「チャレンジ」が44.2%、「夢・希望」が34.1%となっています。



「遊び・学び・体験」が77.3%で最も高く、次いで「個性・多様性の尊重」が53.7%、「チャレンジ」が46.8%、「夢・希望」が46.4%、「サポート（社会・おとな・制度）」が42.7%となっています。

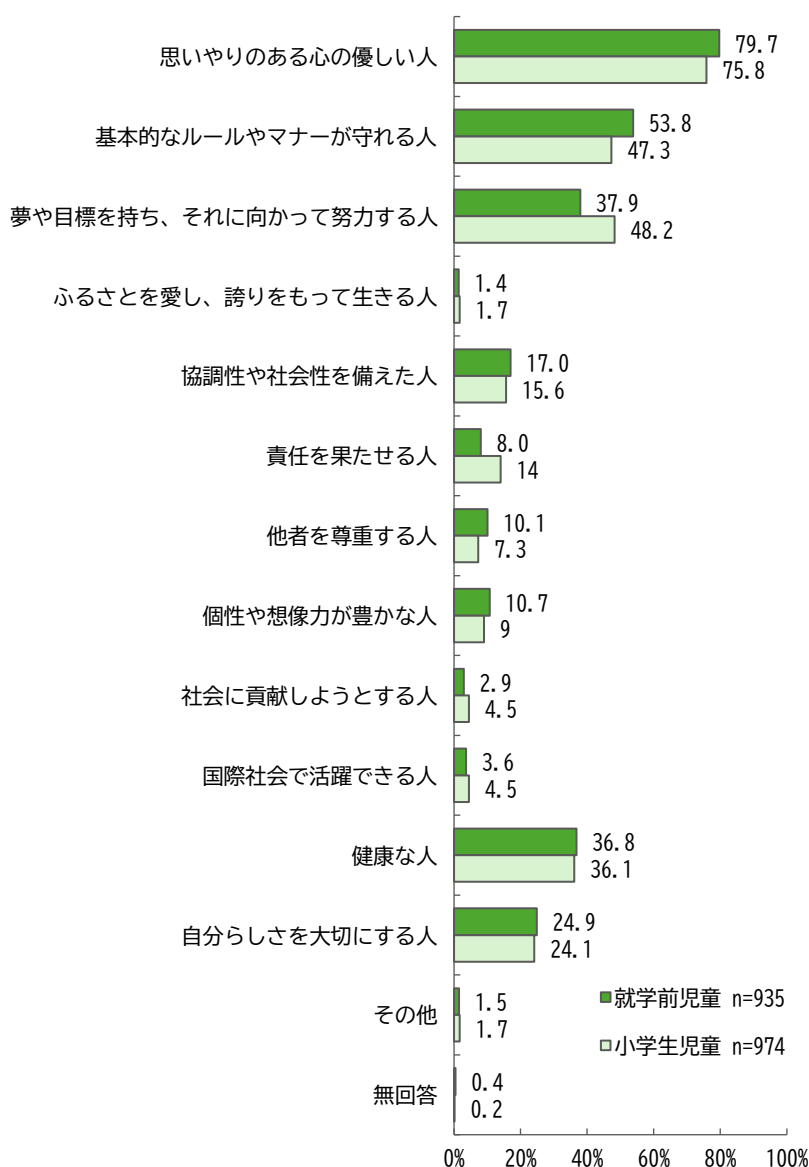


5 宛名のお子さんにどのような人に成長してほしいですか。(複数回答)

就学前 問12-6 小学生 問9-6

就学前児童では、「思いやりのある心の優しい人」が79.7%で最も高く、次いで「基本的なルールやマナーが守れる人」が53.8%、「夢や目標を持ち、それに向かって努力する人」が37.9%、「健康な人」が36.8%、「自分らしさを大切にする人」が24.9%となっています。

小学生児童では、「思いやりのある心の優しい人」が75.8%で最も高く、次いで「夢や目標を持ち、それに向かって努力する人」が48.2%、「基本的なルールやマナーが守れる人」が47.3%、「健康な人」が36.1%、「自分らしさを大切にする人」が24.1%となっています。

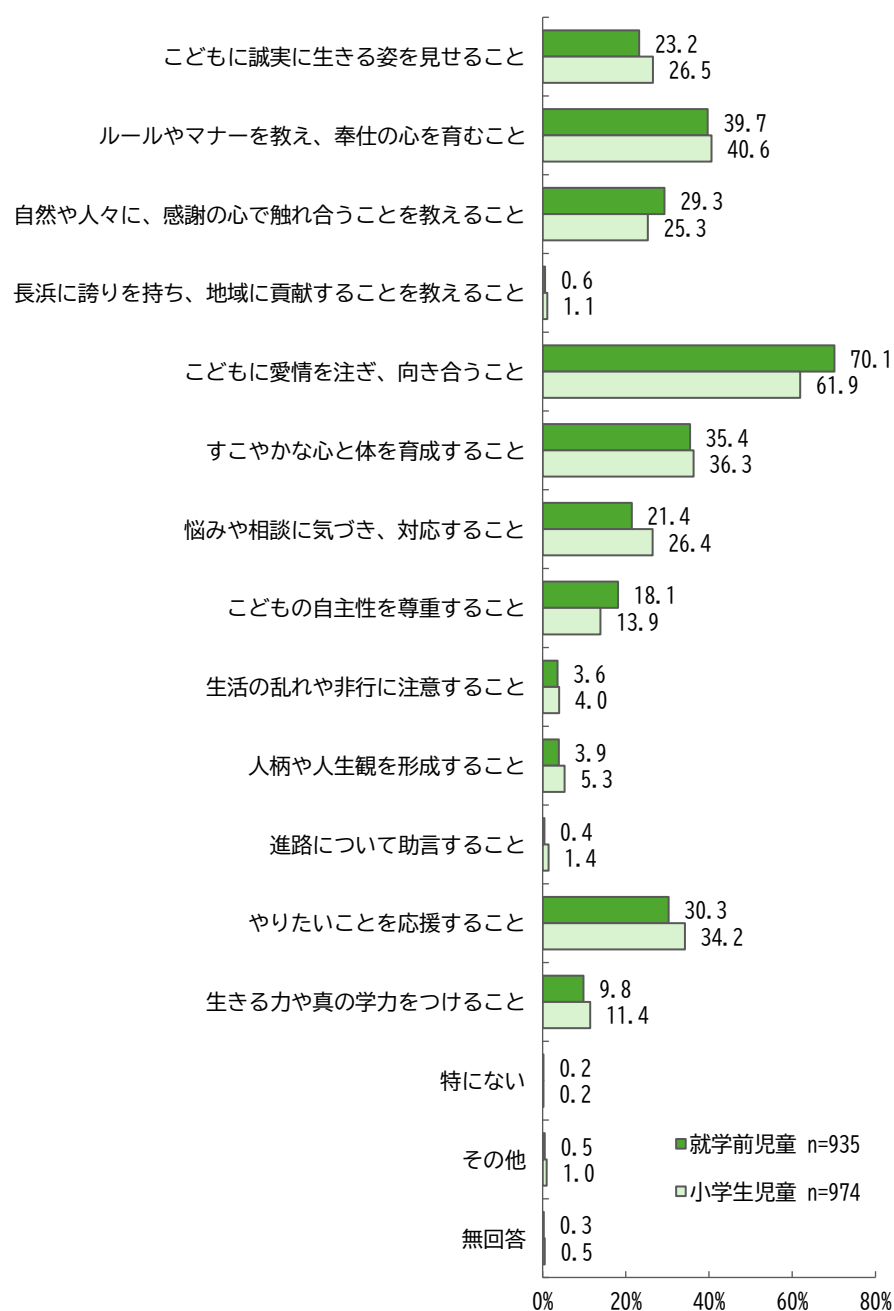


6 お子さんの成長について家庭が担う役割は何だと思いますか。(複数回答)

就学前 問12-7 小学生 問9-7

就学前児童では、「こどもに愛情を注ぎ、向き合うこと」が70.1%で最も高く、次いで「ルールやマナーを教え、奉仕の心を育むこと」が39.7%、「すこやかな心と体を育成すること」が35.4%、「やりたいことを応援すること」が30.3%、「自然や人々に、感謝の心で触れ合うことを教えること」が29.3%となっています。

小学生児童では、「こどもに愛情を注ぎ、向き合うこと」が61.9%で最も高く、次いで「ルールやマナーを教え、奉仕の心を育むこと」が40.6%、「すこやかな心と体を育成すること」が36.3%、「やりたいことを応援すること」が34.2%となっています。

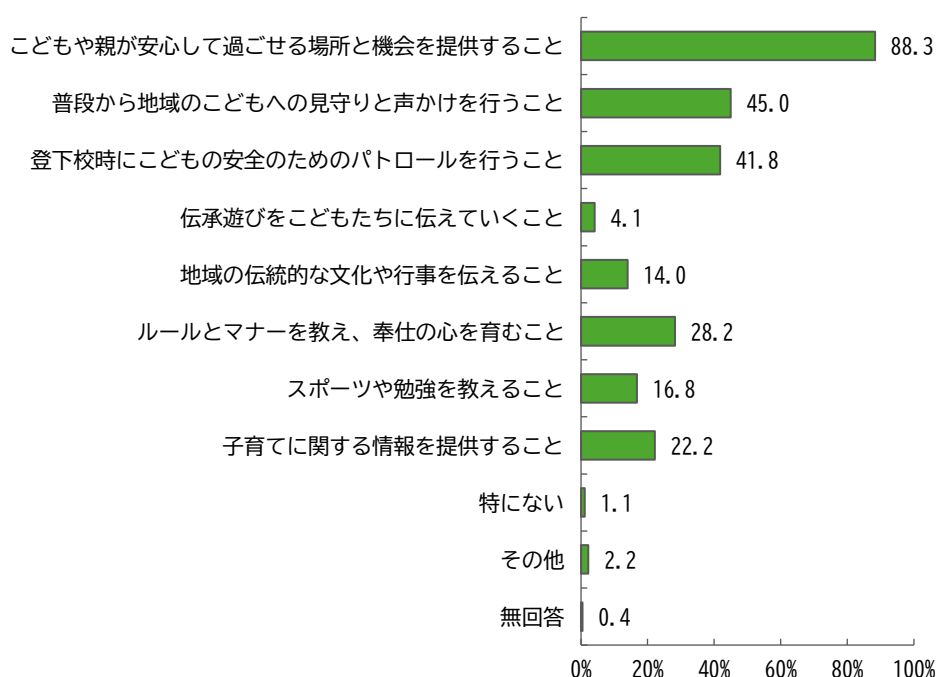


7 お子さんの成長について地域に期待する役割は何ですか。(複数回答)

就学前 問12-8 小学生 問9-8

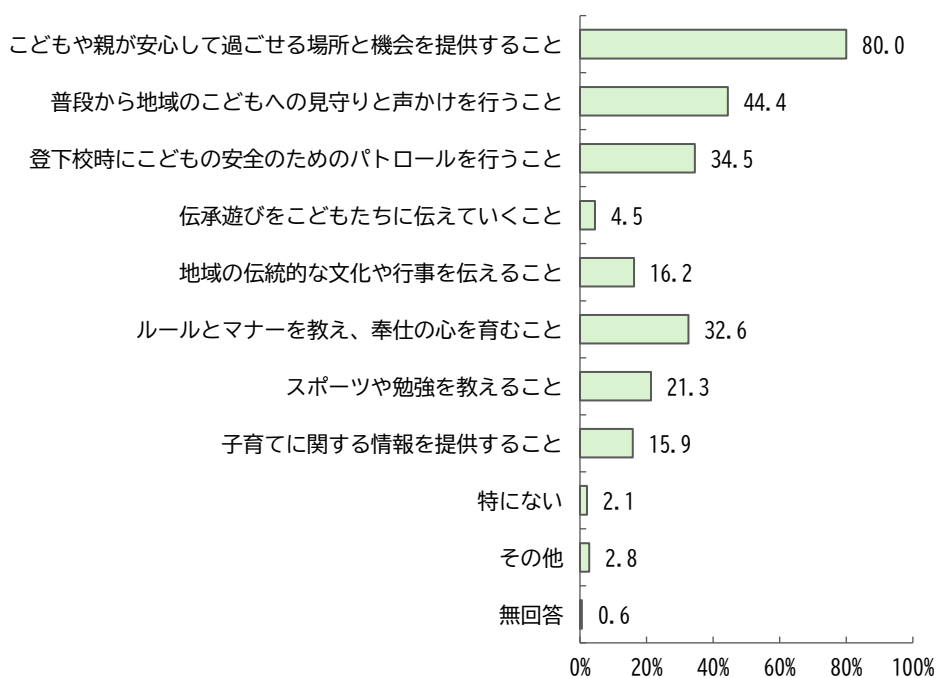
「こどもや親が安心して過ごせる場所と機会を提供すること」が88.3%で最も高く、次いで「普段から地域のこどもへの見守りと声かけを行うこと」が45.0%、「登下校時にこどもの安全のためのパトロールを行うこと」が41.8%、「ルールとマナーを教え、奉仕の心を育むこと」が28.2%、「子育てに関する情報を提供すること」が22.2%となっています。

就学前児童 n=935



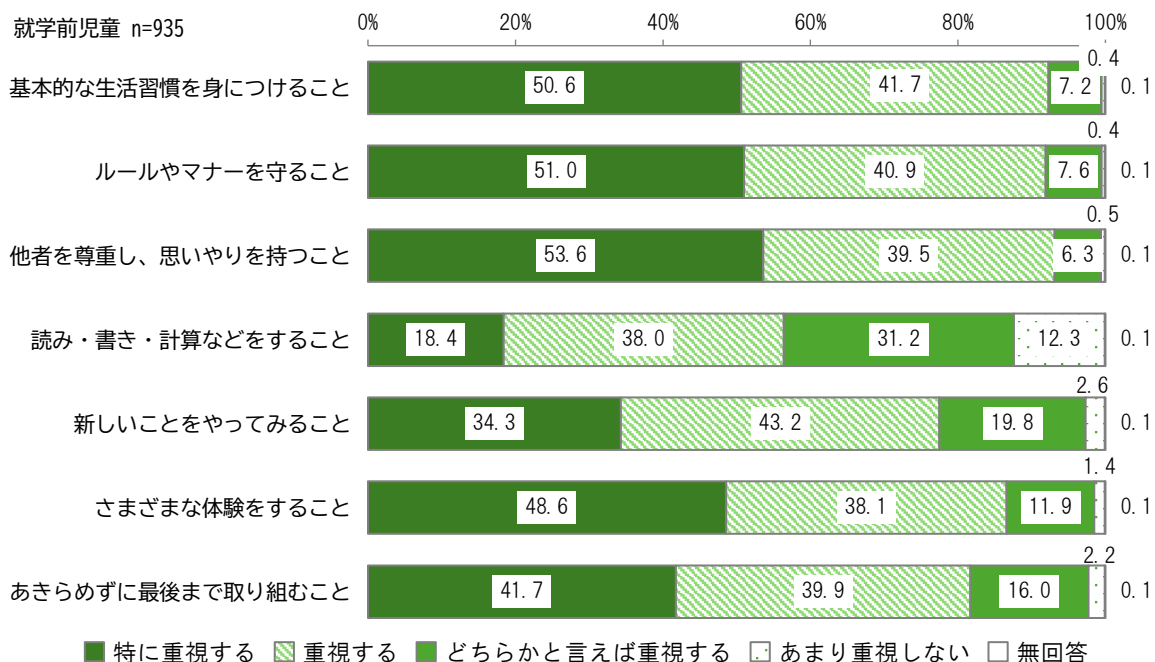
「こどもや親が安心して過ごせる場所と機会を提供すること」が80.0%で最も高く、次いで「普段から地域のこどもへの見守りと声かけを行うこと」が44.4%、「登下校時にこどもの安全のためのパトロールを行うこと」が34.5%となっています。

小学生児童 n=974



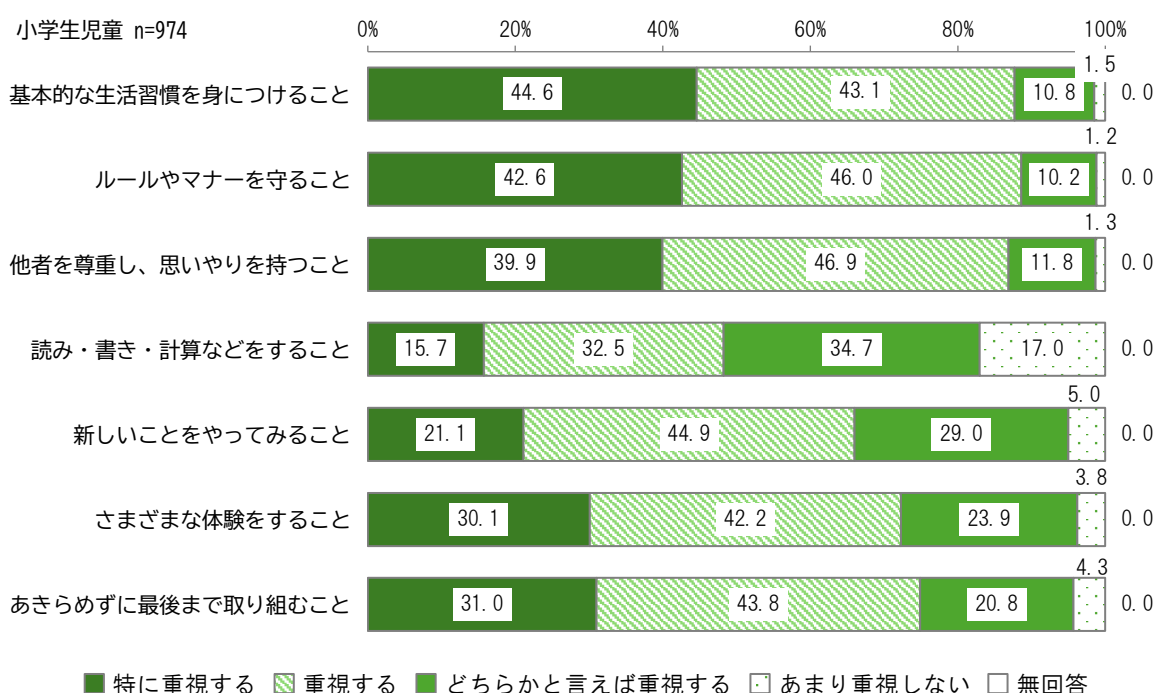
8 お子さんが就学までに重視することは何ですか。(単数回答) 就学前 問12-9

「重視する（特に重視する含む）」割合が高い項目をみると、「他者を尊重し、思いやりを持つこと」が93.1%で最も高く、次いで「基本的な生活習慣を身につけること」が92.3%、「ルールやマナーを守ること」が91.9%となっています。



9 お子さんが就学までに重視していたことは何ですか。(単数回答) 小学生 問9-9

「重視する（特に重視する含む）」割合が高い項目をみると、「ルールやマナーを守ること」が88.6%で最も高く、次いで「基本的な生活習慣を身につけること」が87.7%、「他者を尊重し、思いやりを持つこと」が86.8%となっています。

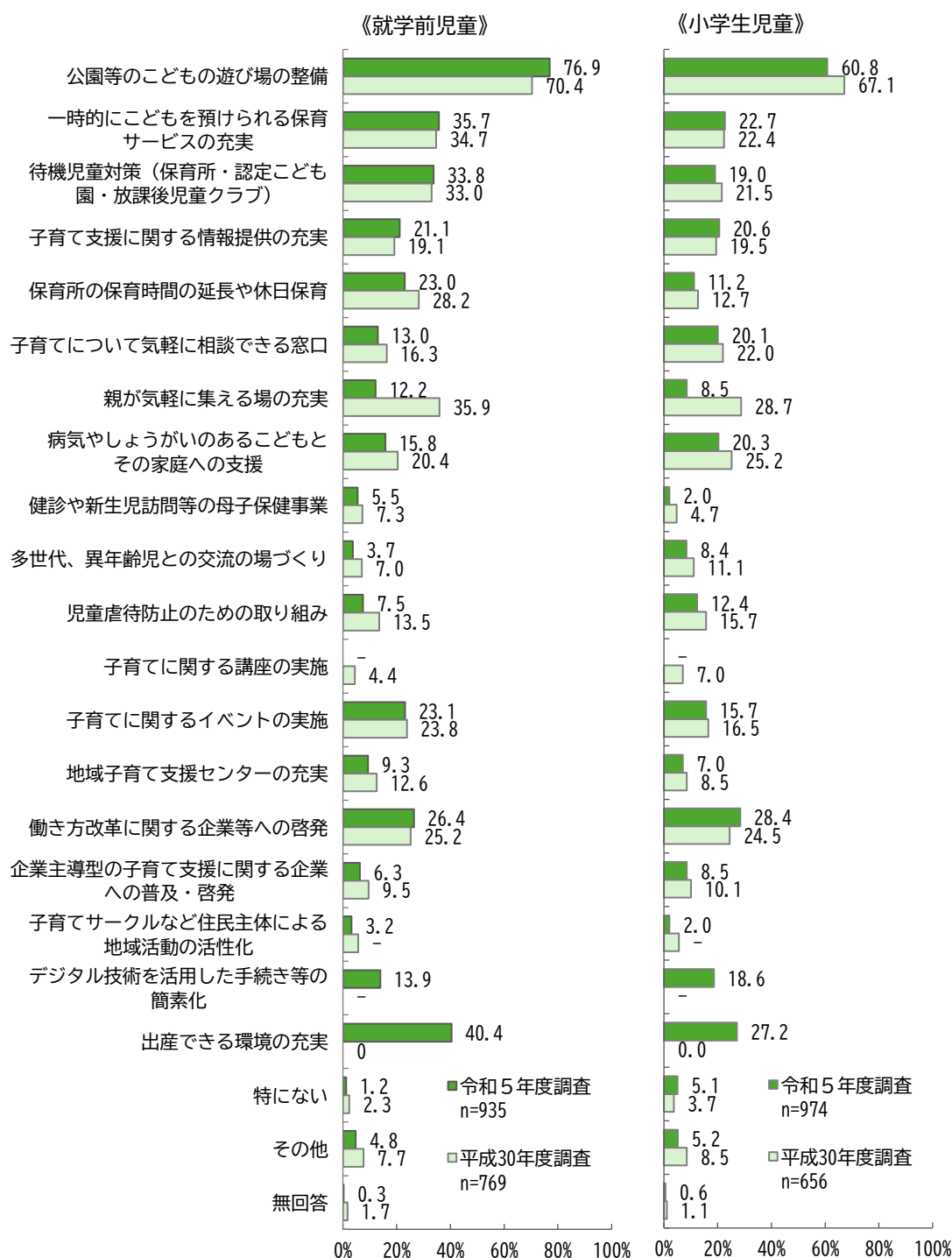


(10) 子育ての環境や支援への満足度について

▶1 市の子育て支援施策で充実を希望するもの(複数回答) 就学前 問12-10 小学生 問9-10

「公園等のこどもの遊び場の整備」が就学前児童（76.9%）、小学生児童（60.8%）ともに突出して高くなっています。

前回調査と比較すると、就学前児童で6.5ポイント増加しますが、小学生児童では6.3ポイント減少しています。

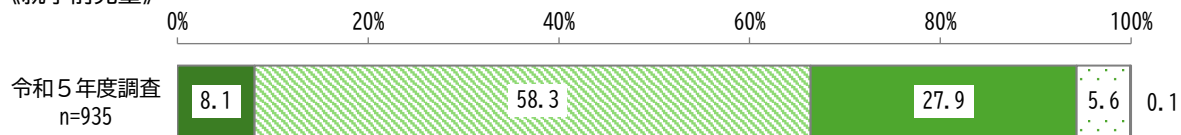


※グラフ内「-」は調査にない項目

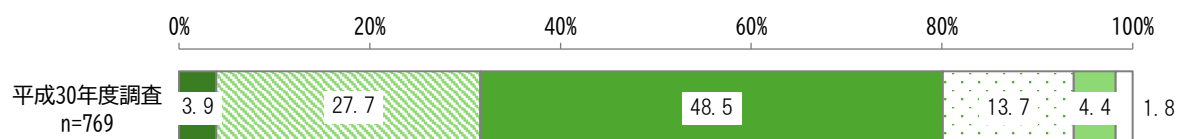
▶2 子育ての環境や支援への満足度(単数回答) 就学前 問12-11 小学生 問9-11

今回調査をみると、「満足」「どちらかという満足」を合わせた、“満足”とする割合は就学前児童が66.4%、小学生児童が69.3%となっています。

《就学前児童》

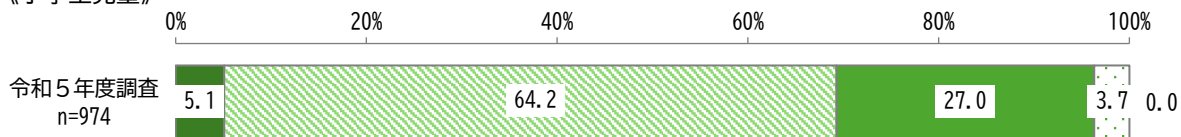


■ 満足 ■ どちらかという満足 ■ どちらかという不満 □ 不満 □ 無回答

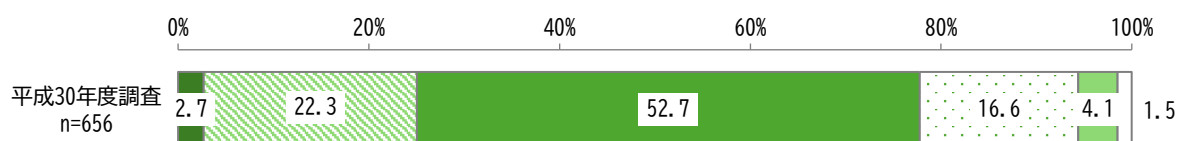


■ 満足度5 ■ 満足度4 ■ 満足度3 ■ 満足度2 ■ 満足度1 □ 無回答
 満足度が高い ← → 満足度が低い

《小学生児童》



■ 満足 ■ どちらかという満足 ■ どちらかという不満 □ 不満 □ 無回答

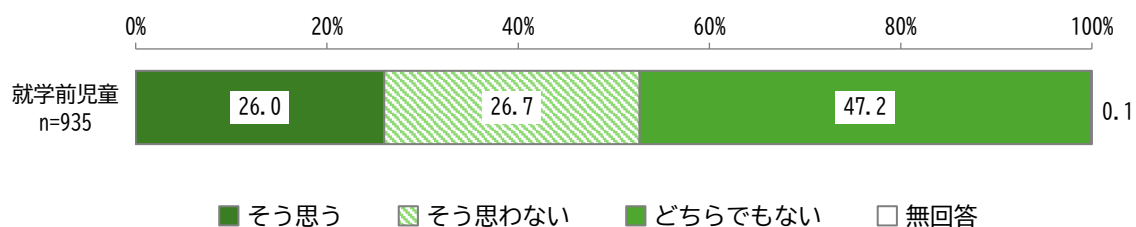


■ 満足度5 ■ 満足度4 ■ 満足度3 ■ 満足度2 ■ 満足度1 □ 無回答
 満足度が高い ← → 満足度が低い

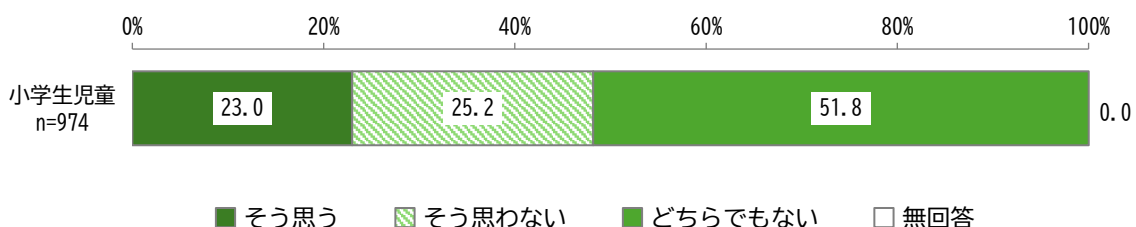
3 「結婚、妊娠、こども、若者、子育てに温かいまち」の実現に向かっていていると思うか(単数回答)

就学前 問12-14 小学生 問9-14

「どちらでもない」が47.2%で最も高く、次いで「そう思わない」が26.7%、「そう思う」が26.0%となっています。



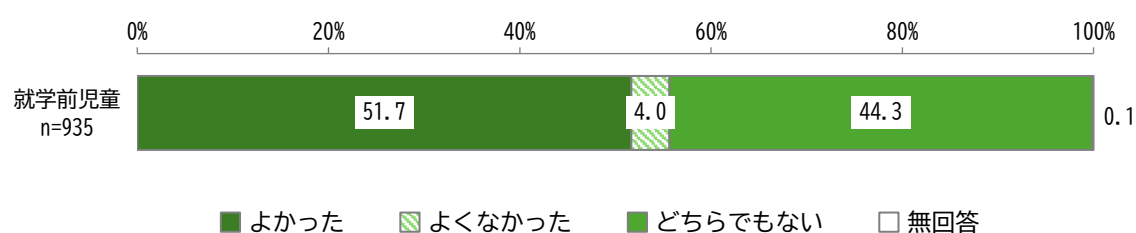
「どちらでもない」が51.8%で最も高く、次いで「そう思わない」が25.2%、「そう思う」が23.0%となっています。



4 長浜市で子育てしたい、子育てしてよかったと思いますか。(単数回答)

就学前 問12-14 小学生 問9-15

「よかった」が51.7%で最も高く、次いで「どちらでもない」が44.3%、「よくなかった」が4.0%となっています。



「よかった」が52.3%で最も高く、次いで「どちらでもない」が42.8%、「よくなかった」が4.9%となっています。

